

平成30年度事業報告書

社会福祉法人創和会

目次

はじめに	2
平成30年度主要課題総括	3
地域密着型特別養護老人ホーム	4
通所介護事業	1 1
訪問介護事業	1 5
居宅介護支援事業	1 9
看護グループ	2 5
グループホーム	2 7
総務管理課	3 3

1, はじめに

今年度は木曽東グループホーム園が通年で満室稼働出来た1年となったことは成果であった。以下に成瀬台拠点も含めた年間活動実績について全体総括を述べる。

特別養護老人ホーム部門であるが、目標としている居室稼働率が98.5%である中、多職種協働で入居者の健康管理に取り組んだ結果、入院者を出さず年間でわずか6床の空床しか発生させなかった。このことにより、平均居室稼働率は99.9%という理論上限に近い、極めて高い稼働率を達成できたことは大変大きな成果であった。

デイサービス事業であるが、年間利用者数は、29年度の平均利用者数31.8人に対して、30年度は33.2人と1.4人の増加に留まった。一般型デイサービスの延べ利用者は、29年度の平均利用者数29.2人に対して30年度は29.5人と現状維持がやっとであったが、認知症対応型デイサービスの延べ利用者は、29年度の平均利用者数2.6人に対して30年度は3.7人と稼働率22%から31%まで上昇した。しかしながら、昨春の報酬改定が不利に働いたことから、利用者増が事業収入の増加に必ずしもつながっていない。今後とも積極的な営業活動による新規利用者の受け入れが最優先課題である。

ヘルパーステーションについては、全体の利用者の内、要支援者の占める割合が37%となっており、単価の低い町田市基準型総合事業の影響から事業収入の減収が見込まれていた。新規利用者の受け入れや重度要介護者の対応にも努めたが、一方で急な入院や施設入所によるサービス終了も多く、年間では前年度比で1500時間近くの派遣時間数が少なくなり減収幅も大きかった。

ケアマネジメントセンターについては、昨年4月からに常勤の介護支援専門員が退職したことから、特定事業所加算Ⅱの算定要件を満たさなくなり報酬減となった。加えて、後任の介護支援専門員の採用活動が思うように進まず、充足したのが本年2月まで遅延したこともあり、この9ヶ月間にわたり、ケアプランの引受件数を抑制せざるを得なかった為、全体として大幅な事業収入の減少を招いてしまったことは反省点であった。改めて人員体制の強化を目指していきたい。

木曽東グループホーム園であるが、開設初年度の29年12月に満室化して以降は、安定的に入居者を確保でき、目標としていた95%を超える97%近い居室稼働率を達成出来たことは喜ばしいことであった。その一方で、配置している介護職員の定着が思うように進まず、せっかく採用できても短期間での退職につながるなど、夜勤を含めたシフト組みに苦慮した1年でもあった。その為、複数の派遣職員に頼らざるを得ず、高額な派遣費用を支出することとなっただけでなく、ケア方針の共有や統一に課題を残した期間でもあった。

最後に、軽度から重度までの連続的な介護ニーズに対応可能な体制が法人内で構築できたことは、地域包括ケアを実践する上でプラス要因であるが、我々が提供する対人援助サービスは、その大半が人そのものの関わりによるものであり、介護ロボットやICT技術で補えるのはそのごく一部に過ぎない。法人として必要な「人」をいかに採用育成し定着できるかが、事業継続上極めて重要なテーマであると言わざるを得ない。リーダー層や幹部職員のさらなる育成強化や、現場実務を支える介護職員を中心とした質の高い人材確保と定着が中長期的な経営課題であろう。

2. 平成30年度主要課題総括

1. 介護保険制度改定への確実な対応

(成果)

介護保険制度は、3年毎に制度内容や報酬の改定で行われるが、平成30年4月は、介護保険と診療報酬のダブル改定となり、中重度の要介護者に対する適切な医療・介護サービスを切れ目なく受けることができる体制整備が特に問われることとなった。本会としては、特別養護老人ホームの実践を踏まえ、グループホームでも看取りケアに取り組むなど重度化対応を強化した。

2. 認知症通所介護の事業収入回復

(成果)

認知症対応型デイサービスについては、利用者数の減少が続いており、学習療法の提供体制の再強化など、より付加価値のあるサービス提供を目指したが、利用ニーズの高い入浴サービスの午後時間帯の実施に取り組むとともに、外部の居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対する営業活動を意識して展開した。その結果、年間では前年度比では400万円超の増収となった。今後もケアマネジャーへの訪問活動を定期的に行っていくこととしたい。

3. サービス維持・改善委員会の新設

(成果)

本会が提供する基幹事業は公的制度に基づいた介護福祉事業であるが、平成12年に介護保険制度が発足して20年近くが経過し、その間に利用者層も変化していく中で、介護や福祉のサービスも一般消費サービス化してきた。今後、サービスの質を求める戦後世代が相対的に増えてくる中、本会が自主的に、自らの提供サービスの内容やレベルを振り返り、サービス品質の維持並びにさらなる向上を目指し「サービス維持・改善委員会」を発足した。法人全体に関わる横断的な課題を優先してテーマに選定して、サービス品質を高める努力をしていきたい。

4. 成瀬台拠点における照明のLED化

(成果)

既存建物については平成8年2月の竣工後、平成23年度の特養整備に伴う2階の改修工事を除き、照明器具類の更新工事が出来ていなかったが、国によるLED化推進策により、メーカー各社による蛍光灯器具生産の完全終了が迫っていた為、昨年4月末から5月末にかけて段階的に全館の照明器具LED化を完了した。

5. 建物修繕に向けた寄付金募集活動の取り組み

(成果)

第三次3ヵ年計画において、経年劣化している給水ポンプやボイラー設備の更新を予定していたが、資金不足により着手出来なかった為、10月から法人内外に向けて趣意書を広く配布し、修繕目的の寄付金募集活動を強化して取り組んだ。その結果、年間では約250万円もの善意の寄付金収入が得られた。少額の寄付者も多数あったが、多くの地域住民が本会の運営を支えて下さっていることを再確認する機会ともなった。この資金を活用して、速やかに給水ポンプの更新を優先して実施したい。

なお、ケアセンター成瀬の5事業部、2部署の年度報告は以下のとおりである。

地域密着型特別養護老人ホーム

平成30年度活動実績

1. 部門経営の安定化

(方針1) 入居稼働率の98.5%の確保

(実績1) 入居者の体調が安定し、入院者は無く、退居者も1名と少なかった。年間を通じた空床はわずか6床のみに留まり、99.9%という極めて高い稼働率を達成できた。その一方で、入居待機者数が減少していることに対する、積極的な広報や営業活動は行えなかった。

(方針2) 重度要介護者の積極的な入居受け入れ体制の確保

(実績2) 今年度入居された方は、要介護4で入居され、区分変更で要介護5になった方です。重度要介護者でも看護グループ・管理栄養士に協力していただき、健康状態を保ちながら対応することが出来た。

(方針3) 介護報酬改定に伴う加算の見直し

(実績3) 平成30年6月より認知症専門ケア加算Ⅰ(1日3単位算定)を新たに取得する事となった。褥瘡ケアマネジメント加算(1ヶ月10単位で3ヶ月毎に算定)についても、算定を開始したが事務手続きの煩雑さに対して報酬額が少額だったことから途中で中止とした。

2. 介護職員等の体制確保

(方針1) ユニットケアの実践に必要な人材確保

(実績1) 非常勤職員3名、派遣職員1名の退職があり、人材不足が続いている。その為、在籍している現任職員が時間外勤務等をして補っている。今後も継続して求人活動を行い、求職者の家庭事情にも合わせた変則的な勤務も取り入れる等の見直しをすることで、安定した職員体制が出来るよう努める。

(方針2) 職員教育と介護実践基盤の構築

(実績2) ケアカンファレンスや研修会等、出来る範囲内で行っているが、日々のルーチン業務に追われ、満足が行くまでには達していない。この時間を確保するにはどうしたら良いのかが、課題になっている。入居者毎に合わせた介護実践と生活の場に少しでも近づけていきたい。

(方針3) ミーティング等における意見交換しやすい環境づくり

(実績3) ユニットミーティングや常勤ミーティング等、意見交換する機会を持ったが、勤務により参加人数が限られてしまっている。少しでも全員が意見を出せるような環境を作りたい。

(方針4) 外国人介護人材やアクティブシニア人材バンクの受け入れ

(実績4) 日本で3年間の介護職経験のある外国籍の方が、6月中旬より介護職員として勤務する予定でしたが、在留資格を継続する為の就労ビザがおりず、実際に入社に至りませんでした。10月には、介護職として経験のない高齢の女性が、東京都介護職員就業促進事業を活用して「介護職員初任者研修」を受けながら働く予定でしたが、入社後に想定していたよりも大変という理由で、わずか1週間で退職されました。その後、12月には76歳男性の方を採用し、現在まで継続的に勤務されています。

(方針5) 介護ロボットの導入

(実績5) 介護ロボットの検討、費用面から導入には至らなかった。職員不足の為、DVDを活用し、健康体操等するなどの工夫は行った。

3. 介護の質の向上

(方針1) ユニットミーティングによる情報共有

(実績1) 適宜行うようにしたが、勤務時間内にユニット内で行うことが多い為、集中することが出来なかった。今後は、落ち着いた場所、時間に行えるようにしたい。

(方針2) リスクマネジメントの徹底

(実績2) 再発防止策を考えるのに時間がかかる、個人の意見になってしまっている等の不備があり、次の日には複数の意見をまとめて提出し周知する等の改善を行った。

(方針3) 特養研修会の企画

(実績3) 看護グループの協力を得て、看取りケア研修が継続開催出来た。今後も企画していく。特養版のユニットケアマニュアルの作成は出来なかった為、これに伴う研修には至らなかった。来期に継続して取り組みたい。

(方針4) 入居者お一人おひとりに合わせた介護の実践

(実績4) 24時間シートを変更し、サービス担当者会議等の後に訂正しやすい様式にし、入居者に合わせた介護実践を行った。

(方針5) 入居者の社会参加機会の確保

(実践5) 慢性的な職員不足や重介護を要する入居者の増加により、特養での外出企画は殆どなくなってしまった。その代わり、地域でのなるせだい祭りやケアセンター成瀬まつり、地域子供会による子供神輿やハロウィン等に参加させてもらい、地域との良い交流が続けられている。

4. 基本業務

(方針1) ケアプランの作成とモニタリング

(実施1) 入居者、ご家族、介護職、看護職、管理栄養士、生活相談員、介護支援専門員によるサービス担当者会議を開催し、入居者の心身状態を把握し、ケアプランに沿った支援を行った。状態などの変化があった場合には、その都度見直し、モニタリングを行った。

(方針2) 日常生活介護の実践

(実施2)

①食事 日々の食事・水分の摂食状態を把握し、咀嚼・嚥下能力に合った食事を提供した。月1回の頻度で定期的に体重測定を行い、食事量を調整し栄養状態の予防・改善を行った。管理栄養士による嗜好調査を行った。

②入浴 入居者に合わせた3種類の浴槽を使用し、清潔保持に努めた。体調不良などで入浴が出来ない時は、清拭と陰部洗浄を行った。

③排泄 入居者に合わせた排泄方法を行い、不快の無いよう清潔保持に努めた。記録を付けることにより、排便コントロールが出来ている。

④移動・移乗・体位変換

入居者・介護職の身体への負担や事故防止の為、車椅子とベッド又は寝台浴槽との間の移乗に床走行型電動介護リフトを使用した。また、座位が保てる入居者には、スライディングボードを使用した。

⑤口腔ケア 週1回の歯科往診からの助言をもとに、毎食後口腔ケアを実施した。

⑥その他 集団ケアは、歌の会やハーモニカ・ギターなど地域ボランティアに協力を得ることがほとんどであった。介護職員でも行えるように工夫していきたい。その他、四季に応じた、生活環境に務めた。

（方針3）健康管理の実践

（実施3）入居者の健康管理については、配置医、介護・看護の連携により、早期発見・早期対応が出来た。定期健康診断は、鶴川記念病院の出張検診を活用し、施設内で訪問健康診断を実施した。口腔内については、希望者のみ訪問歯科に定期チェックして頂いた。職員の健康管理については、特に夜勤を行う職員は年2回の健診を実施した。

（方針4）機能訓練の実施

（実施4）生活リハビリを中心に、入居者自身で出来る事はなるべく行って頂き、機能維持に努めた。ボール体操も、介護職員により毎週行われ好評だった。希望者には、訪問マッサージ等を利用して頂いた。

（方針5）日常生活援助の実施

（実施5）24時間シートに基づき、生活状況に応じた生活援助を行った。状態変化が著しい方でも、24時間シートの更新をスムーズに進めるよう努めた。看取り期に入られた方には、入居者・ご家族の意向をもとに援助を行い、看取り期専用の用紙に記録をし、介護の統一を図った。

（方針6）季節行事、余暇活動等の実施

（実施6）季節行事 4月お花見 5月端午の節句（兜などを飾る） 6月紫陽花の会 7月七夕飾り・なるせだい祭りへの参加・子供神輿 8月花火見学・スイカ割り 9月家族会 10月ハロウィン 12月クリスマス会 1月新年会 2月豆まき 3月ひな祭り（雛人形を飾る）等の季節行事を行った。

誕生日会 誕生日当日にケーキを用意し、入居者と職員でお祝いした。

レクリエーション 月1回の書道くらぶ、各月の生け花くらぶを開催した。

外出の援助 職員不足や入居者の重度化に伴い、散歩等の外出はほとんど出来なかった。

5. 相談活動

（実績1）日常生活上の相談や各種手続き対応等、必要に応じその都度対応した。

6. 事故防止、防災対策

（実績1）

①建物設備等の維持管理 不備があった際は、直ぐに対応し改善した。

②事故防止 環境整備・見守り強化等の他に、ご家族了解の元、ベッドセンサーや着座センサーを使用した。

③防災対策 年2回の消防設備訓練や避難訓練を実施した。定期的に行う事により、スムーズに実施できた。消防署による、夜間の火災を想定した避難訓練研修を行った。その他、懐中電灯の確認や補充を行った。

④緊急対応 消防署より、年間を通じて救急要請が少ない事に関して表彰を頂いた。

⑤賠償対応 介護上の事故等に関する見舞金の支払いや賠償対応は今年度はなかった。

7. 会議・委員会・研修の実施

（実績1）会議

特養会議 毎月第3木曜日に、施設長、主任、両ユニットリーダー、看護師、介護支援専門員、生活相談員、管理栄養士で構成される会議で、主に特養運営方針や業務上の課題などの検討をする場として行った。

特養ユニットミーティング 月1回の開催予定でいたが、時間を確保する事が出来ず、不定期ながら適宜行うようにした。

合同申し送り 毎日10時50分に行っている、出勤職員、看護師、管理栄養士による情報共有ミーティングは確実に行った。

（実績2）委員会

①褥瘡対策委員会 毎月1回の特養会議に合わせて開催する事になった。

②感染対策委員会 感染症の発生の時期には毎月1回行い、感染症予防の啓発を行った。感染症でない嘔吐や発熱の発生があった時には、感染症対策の予行練習を行った。

③給食委員会 毎月1回、施設長、管理栄養士、看護師、デイサービス職員、特養職員、グループホーム職員、給食部門担当で構成され、検食結果の振り返りや食中毒予防などについて検討を重ねた。また、行事食の検討や提供方法、体重管理の為の食事内容の検討も行った。

④身体拘束廃止委員会 毎月1回の特養会議に合わせて開催した。主に離床センサー使用状況の報告や検討が行われた。

⑤安全管理委員会 毎月1回行われる特養会議に合わせて開催した。ヒヤリハットやインシデント、アクシデントの振り返りと業務改善が行われた。

⑥看取りプロジェクト委員会 今年度は行われなかった。

⑦研修委員会 施設長が委員長となり、総務管理課長、グループホーム長、デイサービス主任、ヘルパーステーション主任、特養主任で構成され、法人内施設研修会の企画や各研修会の参加者アンケートによる事後評価等を概ね2ヶ月に1回開催した。

⑧広報委員会 業務多忙によりほとんど出席出来なかった。

⑨認知症ケア検討委員会 毎月1回特養会議に合わせて開催する事となり、認知症の方の症状に合わせた対応方法を検討した。

8. 地域貢献

（実績1）地域社会への協力

職場体験事業で、南大谷中学校の2年生2名、私立中学生1名、都立八王子東高等学校生1名を受け入れ、特養での生活を職場体験として学んで頂いた。

（実績2）地域交流について

地域の民生委員、老人クラブ、ボランティアグループならびに、中学校、小学校、幼稚園、保育園の生徒や子供との地域交流機会を設けられなかった。

なお、地域の方から頂いた雛人形は、今年度も入居者に飾ってもらい喜ばれていた。

9. 地域社会との連携強化

（実績1）運営推進会議

年6回の運営推進会議を開催した。構成メンバーは、入居者代表1名、ご家族代表1名、地域住民代表2名、高齢者支援センター職員1～2名、グループホームかりん成瀬のホーム長、理事長、施設長、生活相談員等です。主な内容として、2ヶ月間の運営状況やイベントの報告、リスクマネジメントにおける事故後の業務改善策の報告、特養事業全般に関する意見交換です。

（実績２）地域イベント等を通じた入居者の社会への参加促進

今年度も、なるせだい祭りの参加や、成瀬台３／４丁目子供会の子供みこし・ハロウィン等に参加させて頂き、子供達とふれあいました。

（実績３）地域ボランティアの積極的な受け入れ

今年度も沢山のボランティアの方々に、環境整備を始め、ハーモニカ・歌の会・生け花くらぶ・書道くらぶ等に協力していただくことで、入居者に楽しい時間を提供できた。

（実績４）地域教育機関の実習生の積極的な受け入れ

北里大学医学部２年生の実習生６名、町田保育福祉専門学校の実習生４名、昭和薬科大学の実習生１４名を受け入れ、高齢者福祉やユニットケアについて学んで頂いた。それぞれに特別養護老人ホームの生活実態を体験して、高齢者福祉の現場を理解してもらえるように努めた。

平成30年度 地域密着型特別養護老人ホーム収入実績

(単位) 千円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
前年度 収入実績		15823	9479	1550	9619	9350	8534	8796	9329	9638	7685	8174	8640	106617
収入予算		9200	9500	9200	9500	9500	9200	9500	9200	9400	9300	9000	9500	112000
収入実績		9684	9973	9324	9432	9215	9779	9646	9346	9649	9102	9240	9704	114094
達成率		105.3%	105.0%	101.3%	99.3%	97.0%	106.3%	101.5%	101.6%	102.6%	97.9%	102.7%	102.1%	101.9%
四 半 期	予算	27900			28200			28100			27800			112000
	実績	28981			28426			28641			28046			114094
	達成率	103.9%			100.8%			101.9%			100.9%			101.9%
居室数		600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	560	620	7300
稼働居室		600	614	600	620	620	600	620	600	620	620	560	620	7294
稼働率		100.0%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%
四 半 期	居室	1820			1840			1840			1800			7300
	稼働居室	1814			1840			1840			1800			7294
	稼働率	99.7%			100.0%			100.0%			100.0%			99.9%
入居者数		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1人
退居者数		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1人

平成30年度 地域密着型特別養護老人ホーム 事業実績(外部来訪者・実習受け入れ等)

(1) 学校実習生等の受け入れ実績

学校名	学科名	学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
町田福祉保育専門学校	介護福祉学科	1年			2名										2名
町田福祉保育専門学校	総合福祉学科	2年						2名							2名
北里大学	医学部	2年							3名	3名					6名
昭和薬科大学	薬学部	1年						2名	8名	4名					14名
中学校/高校		2年					2名								2名
			第1四半期合計			第2四半期合計			第3四半期合計			第4四半期合計			総計
			2名			6名			18名			0名			26名

(2) ボランティア受け入れ実績(延人数)

ボランティア団体	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
住民の会(ぶどうの会)	40名	40名	40名	39名	38名	39名	43名	42名	41名	40名	39名	39名	480名
ギターコンサート		3名						1名					4名
生け花(七沢様)	1名								1名		1名		3名
書道(雨宮様)				1名	1名	1名	1名			1名	1名	1名	7名
歌の会(歌の会)		1名	1名		1名		1名	1名	1名	1名	1名	1名	9名
ハンドマッサージ(清水様)	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名		1名	11名
ゆうき堂体操		1名							1名				2名
成瀬教会									15名				15名
クリスマス会									5名				5名
お茶会(むくげの会)		8名											8名
節分(豆まき)											1名		1名
	第1四半期合計			第2四半期合計			第3四半期合計			第4四半期合計			総計
	138名			123名			156名			128名			545名

通所介護事業部（デイサービス）

1. 平成30年度活動実績

（方針1）「通所介護事業の維持の取り組み」

1-① 積極的な外部への営業活動の展開。

実績① 平成29年度の落ち込みを回復するため、各居宅介護支援事業所への営業活動を実施しました。通常のパフレットと認知症対応型デイサービスの概要、くもん学習療法の案内を持参し、ケアセンター成瀬の多彩な趣味活動の紹介と空き状況をケアマネジャーに伝えました。また、平成30年度は青葉区の居宅介護支援事業所からも新規ご利用者の紹介を頂き、以前取引があった奈良地域ケアプラザからも複数のご利用者の紹介がありました。

1-② 入浴サービス枠の拡大

実績② 新規ご利用者のニーズに対応するため入浴サービス枠の拡大を行い、スタッフが対応可能な日は午後の入浴も実施しました。この結果、月間利用で平成30年3月度の229名に対し、平成31年3月度は276名と約20%増やしました。

1-③ 認知症対応型デイサービスに関する営業活動の強化

実績③ 認知症対応型デイサービスでは、当事業所の一般型デイサービスの利用者と同じ趣味活動等に参加しながら、認知症対応の専任スタッフが支援につく状況や、学習療法の成果等をケアマネジャーに伝えることで、新規では2名と利用があり前年実績を上回りました。在籍者は10名ですが、ショートスティをご利用になる方も多く、デイサービスの利用日数は不安定な状況で、特養等へ入所の申込みをされていて空きが出たら入所される予定の方も複数いることから、稼働率を高めていくにあたり不安要素がある。認知症対応型での受け入れを増していくには、一般型とは完全に異なるサービス提供と配置職員の区分けを行い、スペースの分離を見える化しなければ、その利点が判りにくい部分があるとも感じている。

（方針2）「介護の質の向上」

2-① 町田市推奨版のフェイスシート、アセスメントシート、通所介護計画書の活用

実績① 今後推奨版の内容が網羅されているかが、実地指導のポイントとなることを考え、原則的に町田市介護推奨版を活用し、求められている通所介護計画の充実を図り、サービス担当者会議等でケアプランへの反映の働きかけを行った。加算では入浴介助加算と個別機能訓練加算Ⅱを算定しているが、加算に対しての要件は確実に満たすように実施した。

2-② 認知症対応型（りんごくらぶ）の満足度向上

実績② 認知症対応型での活動では、一般デイで行っている機能訓練と同様のプログラムで運動を行い、別室で一般デイと別メニューでのプログラムを実施した。歌、パズル、ことわざカルタ、絵合わせ等の視覚、聴覚から頭を使うプログラムや、テーブルホッケー、ボール送り等の身体を使って活性化を促すプログラムを組み合わせで実施した。天気の良い日は中庭で花を眺めながらコミュニケーションを取り散歩などを行った。

2-③ 学習療法の拡大と充実

実績③ 学習療法を当事業所の付加価値サービスとして、積極的にご家族やケアマネジャーに説明した。この結果、平成30年4月に19名だった学習者が8月に22名まで増えたが、その後契約終了等で平成31年3月には17名に再び減少してしまった。デイサービスの強みとして位置づけている学習療法なので、今後とも居宅介護支援事業所への訪問時

や見学対応での説明をしっかりと行う必要があると感じている。

（方針3）「社会貢献」

3-① 地元の学校などの教育機関との連携

実績① 平成30年度も地域の拠点として地元の学校との交流を行いました。

北里大・昭和薬科大の学生が9月・10月に体験学習で来所し、町田福祉保育専門学校の学生が9月・10月に実習で来所した。重なる時は、北里大・昭和薬科大・町田福祉保育と予定が重複して学生が事業所内にいるため、本来個別に説明や体験を行うべき場面を合同で行う事があった。次年度の受け入れ態勢についての課題になると考える。成瀬台中学の職場体験では、小学校の時に来所した経験のある生徒が再び体験をしたことで、将来お年寄りの役に立つ仕事に就きたいと感想を述べていた。成瀬台小学校は、5年生が1クラスずつ3日間に分けて来所し、ご利用者との交流を楽しんだ。引率の教師も8月に当事業所で体験研修を受けていて、地域の中で小学生を見守ってきた大人たちが年をとり高齢者施設を利用する流れや、子供たちを見守ってきた高齢者が今後何らかの手助けが必要な場面では、成長した子供たちが今度は手を貸していく立場になって支え合う地域になればと望ましいとの説明を行った。

3-② 認知症対応型デイサービスでの年2回の運営推進会議を開催する。

実績② 8月に町田市合同運営推進会議（まちだ正吉苑で開催）があったことから、単独での運営推進会議の開催は2月のみの1回しか開催できなかった。

＜平成30年度活動実績の総合的な評価＞

（実績）

一般型デイサービスは目標の85,000千円に対し82,177千円と96.7%と未達でした。前年度比では95.8%に減少しました。

認知症対応型では目標15,000千円に対し15,808千円で105.4%を達成しました。前年度比では134.4%まで増加しました。

一般型、認知症対応型合算では目標の100,000千円に対し97,985千円と98.0%の達成率でした。前年度比では100.5%となりました。

（評価）

30年度は29年度の特に認知症対応型の落ち込みを踏まえ、認知症対応型の目標を抑え気味に設定していたこともあり、結果として目標は達成となり前年度を大きく上回りましたが、数名のご利用差で数字が左右されますので、安定した運営の結果ではないと感じています。各居宅介護支援事業所への営業活動や入浴サービス枠の拡大にかかわらず、一般型が前年度に届いていない事がより大きな課題だと捉えている。

＜その他＞

次年度は入浴サービス枠をさらに増やすとともに、学習療法の充実、送迎範囲の拡大等の集客のために必要な体制を作ることが課題である。そのためには介護職員の人員確保が必要で、安定した雇用による長期の就労が定着する環境整備を進めて行きたいと考える。

また、今年度も「ケアセンター成瀬住民の会」の皆様を中心に、ボランティアとしてデイサービスの運営に協力して下さる方が多くあり、利用者到着時の給茶や、くもん学習療法のサポート、趣味活動メニューの講師や各種手伝い等、様々な活動に協力いただいたことは、職員にとっても心強く大変ありがたかった。

1. H30年度 利用者換算人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
一般型通所介護	708	789	761	795	808	791	812	759	750	657	666	760	755
換算合計	602.7	672.5	644.5	670.5	684	679.7	694	648.5	642.5	561.2	555.5	623.7	640
認知症通所介護	73	86	87	85	95	110	101	113	92	99	104	103	96

2. H30年度 入浴サービス利用者曜日別人数

	月	火	水	木	金	土	平均
人数(名)	10.8	10.2	8.3	10.9	10.1	7.6	9.7

3. H30年度 個別機能訓練・運動器機能向上加算対象利用者曜日別人数

	月	火	水	木	金	土	平均
人数(名)	20	23	18	19	20	12	18.7

4. H30年度 学習療法利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計	年間平均
人数(名)	19	18	18	21	22	22	21	21	19	19	17	17	234	19.5
増加人数	0	0	0	4	1	1	0	0	0	1	0	0	7	0.6
減少人数	0	1	0	1	0	0	0	0	2	1	2	0	7	0.6

5. H30年度 新規・終了利用者数

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間合計		月平均	
	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了	新規	終了
一般	1	1	2	1	4	0	2	2	1	2	3	2	5	1	1	4	0	1	1	3	4	4	4	3	28	24	2.3	2.0
認知症	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.2	0.0
総合事業	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	0	10	2	0.8	0.2
合計	2	1	2	1	4	0	6	2	2	2	4	2	6	1	1	4	0	3	3	3	4	4	6	3	40	26	3.3	2.2

6. H30年度 研修会参加者数（延べ人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設内研修	0	8	12	8	0	14	11	10	8	3	9	4	87
施設外研修	0	4	6	8	0	2	3	0	2	1	0	0	26
行政研修	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3
合計	0	12	18	16	2	16	14	10	10	4	10	4	116

7. H30年度 実習生(体験学習)受入れ及びボランティア活動人数（延べ人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
北里大学	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
昭和薬科大学	0	0	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	10
町田福祉	0	0	0	0	0	2	10	0	0	0	0	0	12
成瀬台中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10
ボランティア	90	95	95	96	125	120	95	95	90	120	90	95	1,206
その他	0	0	0	0	26	16	0	0	0	0	100	0	142
合計	90	95	95	96	151	140	116	95	90	130	190	95	1,383

その他内訳

8月 成瀬台小教員研修延べ4名・すまいる学童くらぶ22名

9月 小川高校1名・成瀬台小2年生15名

2月 成瀬台小5年生100名

8. H30年度 収入実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
一般	H29実績	8,358	6,408	7,810	7,310	7,373	6,822	6,873	7,254	7,734	6,639	5,975	7,204	85,760
	H30予算	7,120	7,080	7,080	7,080	7,080	7,080	7,080	7,080	7,080	7,080	7,080	7,080	85,000
	H30実績	6,413	7,319	7,010	6,908	7,473	7,043	7,464	6,598	6,968	5,605	5,968	7,408	82,177
	対前年比	76.7%	114.2%	89.8%	94.5%	101.4%	103.2%	108.6%	91.0%	90.1%	84.4%	99.9%	102.8%	95.8%
	対予算比	90.1%	103.4%	99.0%	97.6%	105.6%	99.5%	105.4%	93.2%	98.4%	79.2%	84.3%	104.6%	96.7%
認知	H29実績	1,135	1,077	1,122	952	1,021	1,006	972	969	901	900	711	993	11,759
	H30予算	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	15,000
	H30実績	1,042	980	1,249	1,231	1,415	1,226	1,424	1,605	1,268	1,433	1,427	1,508	15,808
	対前年比	91.8%	91.0%	111.3%	129.3%	138.6%	121.9%	146.5%	165.6%	140.7%	159.2%	200.7%	151.9%	134.4%
	対予算比	83.4%	78.4%	99.9%	98.5%	113.2%	98.1%	113.9%	128.4%	101.4%	114.6%	114.2%	120.6%	105.4%
合計	H29実績	9,493	7,485	8,932	8,262	8,394	7,828	7,845	8,223	8,635	7,539	6,686	8,197	97,519
	H30予算	8,370	8,330	8,330	8,330	8,330	8,330	8,330	8,330	8,330	8,330	8,330	8,330	100,000
	H30実績	7,455	8,299	8,259	8,139	8,888	8,269	8,888	8,203	8,236	7,038	7,395	8,916	97,985
	対前年比	78.5%	110.9%	92.5%	98.5%	105.9%	105.6%	113.3%	99.8%	95.4%	93.4%	110.6%	108.8%	100.5%
	対予算比	89.1%	99.6%	99.1%	97.7%	106.7%	99.3%	106.7%	98.5%	98.9%	84.5%	88.8%	107.0%	98.0%

訪問介護事業部（ヘルパーステーション）

1. 事業実績

（1）訪問介護・日常生活支援総合事業（別表1・4参照）

月平均174名の利用があり前年度（月平均170名）なみの利用となりました。

派遣時間は、9月から減少傾向で前年度より約300時間減少となりました。

気温の低くなる11月ごろから、体調が悪化する利用者が続き、入院や入所となるケースが増えました。

8月には180名だった利用者が12月になると、170名を切ってしまう状況となり、介護保険収入の落ち込みに繋がってしまいました。

7月に常勤サ責の退職、9月に町田市に寄る実地指導を受ける事で、一旦新規受け入れを中止していた事も要因の一つだと思われます。

（2）居宅介護・重度訪問介護（別表2参照）

居宅介護の新規は1名、重度訪問介護の利用は昨年同様1名です。

現在、移動支援のサービスの依頼はありません。

重度障害ALSの方の喀痰吸引を実施していましたが、訪問介護員の出来る吸引圧（20kPa）では喀痰が引けなくなってしまった為、家族対応に移行されています。

（3）制度外訪問介護（別表3参照）

毎月20～30名の利用がありました。

昨年と比べ約200時間増えました。（昨年4～1月比）

内容の半分近くは、通院の付き添いよりも、介護保険の上限オーバー分を制度外サービスに回し、補っているケースが多くなっています。

2. 事業総括

1（方針）利用者のニーズに合った満足していただけるサービスの提供。

（実績）施設内研修に、5月18名、6月10名、7月16名、9月14名、10月12名、11月14名、12月05名、1月14名、2月27名、3月12名の参加がありました。

12月の研修には登録ヘルパーの参加が0名でした。

外部研修に、5、6、10、11月『サ責カフェ』 7月『サ責初任者研修』

11月『東京都における苦情対応の仕組み』に参加しました。

登録ヘルパー向けに、5月、2回『私有車両説明会』を実施し、特に自転車を業務で使用しているヘルパーに、どんな場合に事業所加入の保険が対応になるか、または対応にならないかを“あいおいニッセイ同和損保”の方より説明を受けました。

研修に参加し専門性の取得に努めました。

登録ヘルパーの施設内研修の参加率が昨年同様低かった事が今年度も課題となりました。

2（方針）登録ヘルパーの確保。

（実績）3名の新規ヘルパーの登録がありました。1名は内勤スタッフ（2回/週）です。

もう1名は登録直後、やはり居住地が遠方との理由で退職となりました。他には13年勤務してくれたヘルパーが、1月で他事業所デイサービスの非常勤職員に転職の為退職、2月には16年勤務のヘルパーが高齢の為、退職となり、現在の登録ヘルパーは45名弱と昨年より約5

名減少しました。1名稼働していた“まちいきヘルパー”も、怪我の療養が長期に渡っており退職となりました。市基準の総合事業対象者のサービスには、内勤スタッフや有資格者のヘルパーが対応せざる得ない状況です。

4（方針）必要書類の整備。

（実績）9月に町田市の実地指導を受ける事になった事で、スタッフ全員で書類の整備を行いました。なかには記録、計画書とも作成されてなかったケースもあり、それを整えるには沢山の時間と労力を強いられる事になりました。日頃から少しの時間でも事務に費やせる時間を、いかに作るかが大切な事だと感じました。書類不備等に寄る介護報酬の返還はありませんでした。

5（方針）看取りケアの受け入れ。

（実績）看取りケアとしての依頼はありませんでしたが、体調が徐々に悪化され、在宅での最期を希望された方を12月に看取りました。

6、（方針）派遣漏れの防止。

（実績）今年度も介護ソフトの導入には至りませんでした。昨年同様引き続き、派遣漏れ防止の為にWチェック、代行依頼したヘルパーに前日連絡を徹底する事を行いました。派遣漏れは、ほぼ無くなりました。

全体総括

7月に常勤職員が退職するにあたり、6月に内勤ヘルパーからサ責に職務の変更を行いました。登録ヘルパーが減少しつつある現状の中、どのような方法で人材の確保をやっていくべきか、大きな課題として残りました。代行活動も毎日数十件あり、内勤ヘルパーでは賄えない日もありました。そんな中の実地指導となりましたが、返還無しで終わった事は、スタッフ全員の理解と協力があったからこそと思います。派遣漏れにも日々、意識を持ち対応しや結果、以前の様に漏れる事を減少する事が出来ました。

別表1 介護保険

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	29年度	157	166	171	170	176	174	177	174	180	182	186	185	2098
	30年度	180	173	177	180	179	172	171	172	168	167	170	166	2075
要介護者数	29年度	100	106	106	107	111	108	110	107	113	113	120	120	1321
	30年度	113	107	113	114	111	104	107	110	108	107	108	106	1308
法人内 CM	29年度	40	36	38	38	45	43	42	43	48	48	48	48	517
	30年度	46	45	44	47	44	40	42	42	40	41	40	39	510
法人外 CM	29年度	60	70	68	69	66	65	68	64	65	65	72	72	804
	30年度	67	62	69	67	67	64	65	68	68	66	68	67	798
要支援者数	29年度	57	60	65	63	65	66	67	67	67	69	66	65	777
	30年度	67	66	64	66	68	68	64	62	60	60	62	60	767
新規 利用者数	29年度	1	12	6	4	9	4	3	9	6	3	8	11	76
	30年度	1	0	6	6	6	0	0	3	0	0	8	4	34
派遣時間	29年度	1,546	1,740	1,731	1,675	1,742	1,970	1,761	1,749	1,725	1,694	1,584	1,766	20,683
	30年度	1,579	1,656	1,632	1,712	1,697	1,580	1,682	1,542	1,519	1,545	1,455	1,589	19,188
登録HP 活動人数	29年度	45	46	45	46	46	46	45	45	45	47	48	48	552
	30年度	47	45	44	47	46	46	48	48	44	44	44	44	547

別表2 障害

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居宅介護 利用者数	29年度	9	9	9	9	9	10	11	11	11	10	9	9	116
	30年度	9	10	10	10	10	10	11	11	10	11	10	11	123
重度訪問 利用者数	29年度	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	30年度	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
地域支援 利用者数	29年度	2	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	8
	30年度	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
派遣時間	29年度	90.3	122.0	107.3	101.5	109.3	96.8	103.5	95.5	123.0	122.5	106.5	117.5	1295.7
	30年度	129.3	140.5	136.0	145.0	128.0	130.0	168.0	123.0	147.0	139.5	123.0	149.5	1658.8

別表3 制度外

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
派遣時間	29年度	82	90.5	91	76	80	75	94	78.5	105	88.5	91.5	97.5	1049.5
	30年度	86.5	123.3	104	102.7	86	87	108.4	84.3	107.9	92.4	74.1	56.4	1113
利用者数	29年度	21	25	25	23	19	24	24	20	26	20	21	25	273
	30年度	20	24	20	23	25	24	25	24	28	24	25	18	280

別表4 収入計

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総収入	29年度	7050	7065	7885	7443	7535	7358	7724	7850	8198	7557	7616	7831	91112
	30年度	7250	7587	7732	7536	7781	7619	7150	7153	6947	7122	6610	7078	87565

単位:千円

実習生受入数

北里大学医学部2年生 6名

町田保育福祉専門学校生 4名

居宅介護支援事業（ケアマネジメントセンター）

1. 活動方針

ご利用者のご希望や状態をふまえ、不安を軽減し、望まれる生活が送られるよう、新たなつながりや生きがいを生活の中に見つけていただけるようなケアプラン作りや関わりをこころがけていきます。そのために、職員は常に専門知識を学び、最新で必要な情報の収集等をし、より良質で効果的なケアマネジメントを行うことで、ご利用者やご家族の気持ちの支えとなれるような事業所作りをめざします。

今年度は、介護保険制度改正があり、改正の概要・ポイントを理解・把握し、スムーズに移行できるよう、また、町田市総合事業においても正式な導入時期にあたることから、合わせて混乱のないように対応をしてきます。

今回の介護保険改正で挙げられている「地域包括ケアシステムの推進」の「医療・介護の役割分担と連携の一層の推進」「ケアマネジメントの質の向上と公正中立性の確保」に即していけるよう事業所としても取り組んでいきます。

実績

30年4月の介護保険制度改正に関して正しく理解する為、法令をミーティング等で確認するなどし、大きな混乱や、利用者に迷惑をかけることなく、給付管理業務やサービスの調整をすることができた。

研修等で専門知識を学び、一定のケアマネジメントを行うことで利用者、家族を事業所として支えていくことが少なからずできた。また、朝礼やミーティング等で情報を共有し、担当職員が不在でも適切に対応ができた。

2. 具体的な取り組み等

（1）研修計画について

- ① 職員1人が代表で参加する場合の外部研修については、重要なテーマについては部署内ミーティングなどで時間をとり、十分共有し、理解を深めていくようにします。

実績① 資料回覧や週1回行うミーティングにて研修内容を報告し、共有・理解を深めた。

② 新任職員に対しての研修（新任職員があった場合）

- ◇オリエンテーション
- ◇法令や基準について
- ◇ケアマネジメントについて
- ◇町田市住宅改修勉強会
- ◇管理者及び現任職員の利用者訪問に同行
- ◇地域の社会資源についての理解、サービス事業所や医療機関の訪問
- ◇東京都介護支援専門員専門研修Ⅰ・Ⅱ
- ◇その他、外部研修等
- ◇管理者との面談（着任後1・3・6か月）

実績② 5月に入職した事務職員は、新入職員研修に参加した。2月に入職した職員に対しても、オリエンテーションや主任ケアマネジャーによるケアマネジメント業務について研修を行った。

- ③ 町田市ケアマネジャー連絡会に出席し、アセスメントやケアマネジメントについて継続して研鑽の機会を持ち、適正な業務が遂行できるようにしていきます。

実績③ ケアマネジャー連絡会に参加した。不参加の職員がいた時には、部署内のミーティングで、最新の情報や知識等の共有を図り、研修報告の作成をした。

- ④ 管理者については法人内リーダー研修に参加し、リーダーとしての力をつけ業務に還元できるようにしていきます。

実績④ 管理者が定期的に参加した。

- ⑤ 町田市介護人材開発センター主催の研修や医療・介護連携の研修についても随時参加していきます。

実績⑤ 成年後見人制度の活用に関する研修や町田市要介護認定調査員現任研修、公朋会・創和会の合同研修会に参加した。

- ⑥ 圏域で開かれることになったケアマネジメント勉強会に事例を提出し、研鑽に努めています。

実績⑥ 30年度は、ケアマネジメント勉強会の事例提出はなかった。

- ⑦ 主任ケアマネジャーが主任介護支援専門員協議会の活動に参加し、「圏域ケアマネジメント勉強会」のファシリテーターや「まちだ安心して暮らせるプロジェクト」、その他も協力要請のあった事業についても協力し貢献していきます。

実績⑦ 主任介護支援専門員協議会の副幹事として運営に携わりながら、南圏域の研修会やまちだ正吉苑との合同研修会を企画し同時に参加した。

- ⑧ 東京都介護支援専門員専門研修Ⅰ・Ⅱを職員が交代で計画的に受講していきます。

実績⑧ 東京都介護支援専門員専門研修Ⅱに、2名が参加し修了した。

(2) 安全・情報管理面と書式の修正、改定について

個人情報の保護については、特に書類の送達先、FAXの誤送信、個人資料の置き忘れ防止などに注意するため、手順の振り返りを行い、日々、気づき事項があれば全員で分析し、手順書の作成により自らチェックしていけるようにします。昨年度、ご家族からご指摘のあった事業所等の外部機関との連携に際しての個人情報の取り扱いについても注意をしていきます。

また、定期的に書類整理の時間を設け不要な書類の処分、廃棄を年に1～2回は設け、必要な情報もわかりやすく保管していけるようにします。

実績→個人情報の取り扱いには注意を払い、誤送信や置き忘れ等はなかった。

保管期限の切れた書類に関しては、整理し廃棄した。

リスクマネジメント委員会に参加し、その都度、ミーティングで共有・検討し、再発防止に努めた。

(3) 職員間の連携

今年度も職員間での情報の共有、意思疎通、一体感の醸成に努め、迅速、的確な利用

者対応をめざします。この点については、平成28年度に受けた第三者評価のアンケートにおいても良い点として評価があり、担当職員が不在時でもできるかぎりの確なご利用者対応ができるように職員間での状況の把握を常に心がけ、風通しのよい職場づくりをしていきます。

毎朝のミーティング、毎週の定例部署内会議、執務中の情報交換、業務日誌等を活用します。

実績→朝のミーティングや部署内ミーティング、業務日誌を活用し、職員間の連携に努めてきた。特に部署内ミーティングでは、困難ケースに対する報告・共有や初回のケアプランに対するケアマネジメントの考察等、利用者の情報共有に努めた。
また、様々な勤務形態の中、事務的な連絡漏れ等を減らす為、連絡ノートを活用した。5月から週5日勤務の事務職が入職したことで、連携が取れやすくなった。

(4) ケアマネジメント業務の見直し、質の向上について

利用者台帳の他の職員の利用者台帳を毎月2～3件ずつお互いに交換してチェックし、部内においてセルフチェック体制を継続していきます。

実地指導で指摘の多い契約書等、必要書類の漏れなどが無いよう、点検を実施できる体制を築いていきます。昨年度から管理者が認定更新時等に必要書類のチェックするようにしたが継続できるようにします。

さらに、新規利用者や対応が難しいケースについても、事業所内で検討し、必要に応じて管理者や主任ケアマネが他の職員の訪問に同行し、状況確認やアドバイスするなど、お互いの業務を見直し、業務の質の向上につとめていきます。

部署内ミーティングにおいて事例検討や関わりが困難なケースの処遇の相談なども行い、それぞれのケアマネジメント質の向上につながるようにしていきます。

利用者、ご家族や他事業所との間に情報連携などにおいて不備があった場合も積極的にヒヤリハット報告や事故報告を活用し、振り返ることによって再発予防に努めていきます。

また、利用者からの少しのご不満がトラブルに発展しないよう、必要なケースについては早めに管理者による訪問も実施し、利用者や担当職員との間を調整します。苦情や事故に発展した場合においても真摯に受け止め、適切な改善につなげていきます。

実績→30年9月に実地指導があり、その際に、都の指導者から今回の介護保険制度改正での記録に関するポイントやアセスメントのポイント等聴くことができたことで、各自の質の向上に繋がった。但し、その後は帳票類の定期的チェックまではできなかった。

ヒヤリハット報告や苦情報告等あった場合には、管理者等が同行訪問し、その後の対応を行い、部署内ミーティング等で情報共有し再発防止に努めた。

(5) サービス終了後のフォロー

施設入所などでサービスが終了した際にも必要に応じて電話等で状況を把握し、その後に問題が起きていないかなど確認をします。

実績→施設入所後等も連絡する等、状況の確認を行った。また、終了したケースに関し

ても、部署内ミーティングで情報共有した。

(6) 事業所・法人パンフレットの活用

部署のパンフレットを改定し、利用者や関連の事業所、利用者や連携の多い医療機関、高齢者支援センターなどへお配りし、地域により貢献していけるように広めていきます。

実績→12月に事業所のパンフレットを改訂した。地域の医療機関にも配布した結果、新規利用者の紹介依頼があった。

(7) ケアプラン担当件数や業務の効率化について

引き続き、特定事業所Ⅱ（400単位）の加算取得事業所として運営していきます。基準を遵守しつつ、また、サービスの質を確保するため「居宅介護支援費Ⅰ」の範囲で利用者をお受けします。常勤換算1人あたり35件程度を目標とし、職員により件数の開きで過剰な負荷がかからないよう、毎月部署内会議にて利用者の動向やプラン件数を確認していきます。

来年度以降も加算要件の人員を確保していくために、現任スタッフの能力向上とともに、新任スタッフの育成にも力を入れて、事業所の維持・拡大ができるようにします。

業務分担表を作成、随時見直しも行い、全体業務の把握、職員の担当業務を明らかにすることで効率的で無駄のない業務につなげ、職員間で補完的な関係をつくることで事業所の質が継続的に保てるようにしていきます。平成28年度末に導入された法人内のクラウドシステムを活用し、支援経過、評価表、サービス担当者会議などの書式の変更や改善をして、業務の効率化を進めていくことで本来業務の充実につなげていけようにします。

実績→4月に職員の退職があり、特定事業所加算Ⅱ（400単位）が取得できず、特定事業所加算Ⅲ（300単位）に変更した。介護保険制度改正での取得要件となった他事業所との合同研修会を7月に行った。

5月から事務職が入職したことで、電話・来客対応、実績の入力や送付の簡素化等ができ、業務の効率化が図れた。その後、2月に常勤ケアマネが入職したことにより、3月より特定事業所加算Ⅱを再取得することが出来た。

(8) 地域への貢献、社会福祉法人としての取り組みについて

本来の居宅介護支援業務はもとより、以下のことにも取り組み地域への貢献や社会福祉法人としての責任を果たすことの一翼を担っていききたい。

①地域ケア会議や地域支え合い会議などに参加し、地域の専門職や住民の方との連携を広げていきます。広報紙「けあなる」に編集委員として関わり、有益な情報を地域に発信していきます。

実績①→公朋会との合同研修会や地域防災会議に参加し、地域の方と少しでも顔の見える関係作りに努めた。また、広報誌「けあなる」の編集員として、介護保険制度改正の記事等の情報を地域に発信した。

②実習生の受け入れ機関として福祉系学校の実習、北里大学早期体験学習の受け入れなどを通し、福祉、医療の人材の育成の協力をしていきます。

実績②→9月に町田福祉専門学校の実習生、10月に北里大学の早期体験実習生を受け入れた。

③特定事業所加算Ⅱの取得事業所として、東京都介護支援専門員実務研修機関として介護支援専門員の育成を担っていくとともに、事業所の質の向上にもつなげていきます。

実績③→6月と8月に東京都介護支援専門員実務研修者2名を受け入れた。

④成瀬台まつり、ケアセンター成瀬まつり、コミュニティ福祉フェア、地域防災訓練などの行事にも積極的に参加し、地域住民の方等とさらなる交流や連携を深めていきたいと思います。
また、法人として新たに開始する週1回程度の施設周辺の清掃奉仕活動にも参加していきます。

実績④→なるせだいまつりへの参加や、法人として週1回水曜日に行っている施設周辺の清掃奉仕活動に参加した。

平成30年度ケアプラン作成実績

(件数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
基本	介護1. 2	116	112	115	115	111	110	108	107	110	110	108	106	1,328
	介護3. 4. 5	47	45	44	45	44	48	50	48	46	47	50	49	563
加算	特定事業所(Ⅱ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	155	155
	特定事業所(Ⅲ)	162	155	159	160	155	158	158	155	156	157	158	0	1,733
	初回	2	0	3	5	1	4	2	5	4	2	4	6	38
	入院時情報連携Ⅰ	0	1	1	2	1	1	1	0	5	3	1	0	16
	入院時情報連携Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院・退所連携Ⅰ(1)	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	4
	退院・退所連携Ⅰ(2)	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	4
	小規模多機能連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	複合型サービス連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	緊急時居宅カンファ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減算・返戻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	予防プラン	30	28	28	30	30	30	30	30	30	30	29	31	356
	予防プラン初回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	認定調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	5

平成30年度ケアマネジメントセンター収入実績

(金額:千円)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
基本	介護1. 2	1358	1311	1346	1347	1300	1288	1265	1253	1288	1288	1265	1241	15,550
	介護3. 4. 5	715	684	669	685	669	730	761	730	700	715	761	745	8,564
加算	特定事業所(Ⅱ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	689	689
	特定事業所(Ⅲ)	540	517	530	534	517	527	527	517	520	524	527	0	5,780
	初回	7	0	10	17	3	13	7	17	13	7	13	20	127
	入院時情報連携Ⅰ	0	2	2	5	2	2	2	0	11	7	2	0	35
	入院時情報連携Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院・退所連携Ⅰ(1)	0	5	0	0	0	0	0	0	5	10	0	0	20
	退院・退所連携Ⅰ(2)	0	0	0	7	0	7	13	0	0	0	0	0	27
	小規模多機能連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	複合型サービス連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	緊急時居宅カンファ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減算・返戻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	予防プラン	128	120	120	128	128	128	128	128	128	129	124	133	1,522
	予防プラン初回	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	認定調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	13	0	21
	その他													505
	収入合計	190	5,294	2,838	2,718	2,662	2,646	2,760	2,671	2,662	2,793	2,788	2,818	32,840
	前年度収入合計	2,763	2,684	2,888	2,980	3,016	2,936	3,034	3,173	3,198	3,257	3,083	2,988	36,000

看護グループ

【全体総括】

現在、看護グループは、常勤看護師 2 名（内 1 名は主任業務兼務）と非常勤看護師 1 名のみとなっております。平成 28 年末で退職した看護師と H29 年 5 月にグループホームに異動した看護師の補充が出来ず、派遣看護師を補充しながら活動していますが、看護師体制強化が必須の課題となっている事は H29 年度より長期に継続中で、今年度も数名の派遣看護師が交代で補充しながら、職員の募集を続けましたが、直接雇用職員の補充は出来ませんでした。

その体制下でも、デイサービスの利用者増員計画や、特養入居者の重度化対応などは実行するべく、努力を行った。

【基本計画と実績】

1. デイサービスご利用者の健康管理を実施します。

在宅医療現場を取り巻く状況が、より深刻になっていきますので、看護師として、医療的にリスクの高い状態を少しでも改善出来るよう、アセスメントを実施し、家族・介護職への良いアドバイザーとなれるよう努めます。

また、平成 29 年 4 月からの 1 年間で要支援のご利用者が総合事業にスムーズに移行できるよう、健康管理面を中心にサポートします。

（計画）（1）医療依存度の高い利用者がより安定的に利用できるよう、施設内職員だけではなく他の事業所と多職種連携を意識し、情報交換やプランの提案を実施します。必要に応じて、できるだけサービス担当者会議に出席します。

看護師が手薄の時も、介護職員が、ある程度判断できるように、医療的指導を行い、適切に対応できるように教育していきます。

実績→H29 年度の利用者数が徐々に減少し、今年度は経営再建のために、特にデイサービス利用者の増員を図るため、デイサービス相談員と協力し、看護師が少ない状況下でも対応できる体制や業務の効率化を検討した。その結果、個別のより細かいプランの対応には及ばなかった事例もあった。ただ、相談員や介護職員に医療サポートをしていただくよう医療情報を指導し、看護師とより深く連携する事により、結果的には、デイサービス職員全体で利用者の体調への配慮ができた。

また、介護職員との他職種連携をさらに強化し、職員全体がスキルアップ出来る様に工夫し、来年度の経営が安定するように検討を開始した。

（計画）（2）認知症対応型デイサービスの在り方をデイサービス関係職員と検討し、創和会の認知症対応型デイサービスの特徴を打ち出せるようにすると共に、看護グループとしても医療情報のアセスメントを丁寧に行い、より個別性のあるサービスになるよう協力します。

実績→認知症対応型の連絡ノートを再作成するため、医療的な部分にサポートを相談したが、認知症対応型のみの個別計画を立案する事はできなかった。

（計画）（3）利用者が在宅生活を維持するために必要な機能を維持できるよう医療的なリスクを考慮して機能訓練指導員と相談しプランへの提案をしていきます。

実績→看護師人員不足により、機能訓練のモニタリングに必要な医療情報のみの伝達にとどまり、それ以上のプランへ発展するような提案は出来なかった。

2. 特養入居者の健康管理を実施します。

医療的なリスクマネジメントを実施し、細やかな健康管理を心がけ、体調の安定を図りますが、終末期に入る入居者には、より細やかなケアが出来る様に関係部署・職員と連携を取りながら最終的には看取りケアまでサポートします。

(計画) (1) 入居者の医療情報のアセスメントをナース間で共有・協議しながら、予測できるリスクに対して、より予防的なケアをチームスタッフと共に実施していきます。

より個別性のあるケアが確立出来る様、専門職としてサポートしていきます。

その情報を、24H シートに記入し、具体的にケアに反映できるようにします。重度化していく入居者の介護に対し、少しでも残存機能を生かせる様に、機能訓練指導や適切な福祉用具の選択、アドバイスを実施します。

実績→看護グループ内の職員同士は、3名の職員のための、密に連絡を取り合う事ができた。人員不足により、派遣看護師を2名配置する事になり、どこまでの情報を提供していくか迷う事が多々あった。それでも、特養担当業務を実施するにあたって、必要な情報は共有するように努めた。

(計画) (2) 入居者が終末期に入る際は、関係部署・職員と連携し、より細やかなケアを提供するために医療職としてサポートします。重症期、看取り期の生活援助は中心となる介護職員が率先して実施できるよう、その育成のために、研修会の実施やマニュアルの修正を行います。日曜日勤務は、H26年末から、継続して実施して確立していたが、看護師不足のため、配置が困難な日はオンコール対応でカバーします。

実績→今期は1名の入居者が看取りケアでご逝去された。その他の入居者は、比較的体調は安定しており、入院や看取り期の対応はなかった。ただ、年々、重度化している中、介護と医療職の連携は欠かせず、日頃のケアの中での個別指導の他、看取りケアの各論研修を実施した。日曜日勤務は、何とか3名のスタッフでローテーション対応した。施設医との連携もこまめに行う事により、体調の悪化や救急搬送をするケースも発生せず、1月には、町田消防署より、適正な救急車利用を実施出来ていると表彰状をいただく事ができた。

(計画) (3) 公的補助のある介護ロボットの情報をキャッチして、介護職員と使用の是非を検討します。

実績→介護ロボットで人気のマッスルスーツの試用を提案し実現したが、特養での実用導入化は出来なかった。

3. 施設内の教育に協力します。

(計画) 看護職員が不足しても必要な内容は、できるだけ施設内研修・各部署の勉強会を随時実施出来る様に努力するが、難しい場合は、外部業者への依頼も含めて検討していく。

実績→看護グループ主催の施設内全体研修を10月に実施した。特養では11月に看取りケア各論の研修を実施した。生活相談員や介護職員に対し、看護師が不足しているサポートや利用者増員のために必要な医療的な視点やケア内容を個別に指導した。

4. グループホーム事業に医療面で協力します。

(計画) 立ち上げから1年しか経過しないうちにホーム長が交代し、業務がまだ不安定の状態がしばらく続くと考えられるため、医療的業務の相談があれば、サポートしていく。

実績→グループホームで、7月に予定外の看取りケアが急きょ行われる事になり、その医療的なサポートやエンゼルケアについてのアドバイスをを行った。

グループホーム

平成29年度に開設してから1年を迎え、ホームの運営も行事やレクリエーションの機会を増やすとともに、ケアを中心に質の向上に努めることを目標とした。ひとつの節目として、1周年記念の会を開催し、植樹や会食会を行い、入居者・御家族、オーナー様家族、スタッフで祝うことができ、今後のさらなる発展を目指していくこと上で良い機会となった。その他にも季節の様々な行事を初年度に比べれば多く開催することができた。

また、6月にはグループホームとしては、初めての看取りケアに入った方がおられた。それまでは看取りケアに関する研修会を開催する機会を作れずにいたが、当ホームの看取りケアに関する指針をスタッフで確認するなどして、皆で看取りケアに取り組む体制を作るようにし、7月には無事にホーム内でお見送りすることができた。下半期には入院者も発生したが、再びホームに戻ってからもお元気に生活をしていただくことができた。

平成30年度事業報告

(計画1) 基本運営方針

認知症などの理由によって地域で自立した生活が困難になった利用者に対して、より家庭的な環境のもとで、食事・入浴・排泄等の日常生活の支援だけでなく、個人的な楽しみや生き甲斐が感じられるような取り組みを行い心身の活性化に働きかけ、より元気になれるサポートを行う。

利用者が有する能力を可能な限り引き出すことで、自立した生活を営むことが出来るよう支援する。利用者による自己決定を大切にして、より良い質の高い介護サービスの提供を目指す。

毎日の食事についても、それは味覚の楽しみだけでなく、人の健康面を左右する重要なものである。常に新鮮で安全な地域の農産物等を使用し、利用者の嗜好を十分に反映出来るよう、味だけでなく見た目の演出にも配慮し健康面にも配慮した、美味しく楽しい食事を提供する。利用者にも可能な限り毎日の調理に加わってもらい、一定の役割を担っていただくような働きかけを実践する。

また、利用者が住み慣れた地域の中で、「自分らしく」「普通に生活する」事ができる様、地域との交流・結びつきを深め様々な連携と協力により、地域社会の中で暮らしている喜びを実感できる生活の場を提供していく。そして、娯楽や趣味活動、文化教養などに触れ合う豊かな暮らしと安らぎを得る、普通の生活の場であり続けることを目指して運営する。

加えて、法人理事長が在宅療養支援診療所の開業医である特徴を最大限に生かし、地域の医療機関との連携を強化したい。時代から求められている看取りケアについてもスタッフ間で勉強し看取りの機会も作れるような体制にしていく。

加えて、法人理事長が在宅療養支援診療所の開業医である特徴を最大限に生かし、地域の医療機関との連携を強化し、入居者の健康管理をしっかりと行っていく。時代的要請でもある看取りケアもスタッフ間で勉強し、希望された場合はホームでの看取りケアが可能な体制にしていく。

実績1⇒日々の生活の中で生き生きと暮らしていただけるような取り組みとして、家事や散歩・外出やレクリエーションなどをできる限り入居者と一緒に行ったが、スタッフが揃わない時などもあり、十分に外出や活動ができない日もあった。具体的には、掃除(掃除機・モップ掛け・台拭き等)、洗濯(洗濯物干し・取り込み・たたむ等)、炊事(配膳・お皿洗いや拭きあげ・お盆拭き)、歌や体操、季節のカレンダー作り、1周年行事の飾り作り、散歩・買物外出等を行った。

年間実施行事等

4月上旬	桜花見（境川団地・境川周辺）
4月16日	お菓子作り
4月29日	グループホーム開設1周年記念の会
5月5日	端午の節句(助六寿司・柏餅)
5月25日	2階ユニット入居者歓迎会
5月28日	フードコート外食(1階ユニット)
6月中旬(4日間)	遠足（相模原北公園・薬師池公園）
6月11日	お菓子作り
7月7日	七夕（短冊・そうめん）
7月29日	生け花
8月6日	おやつ作り
8月16日	流しそうめん、すいか割り
9月17日	敬老会（お弁当・演奏会）
10月6日	バーベキュー
10月23～24日	グループホーム作品展(版画美術館)、映画会
10月28日	生け花
11月11日	ケアセンター成瀬まつり
12月	紅葉狩り（薬師池公園）
12月25日	クリスマス会
1月1日	お屠蘇・お正月メニュー
1月4日	初詣
1月16日	お菓子作り
2月3日	節分
2月6日・9日	鍋メニュー
3月3日	雛祭り
3月17日	生け花

その他、毎月お誕生日会を開催した。日々の活動や行事など、法人のフェイスブックに投稿してアピールするとともに、ご家族にも月に1回、入居者の様子について写真を送るようにして、グループホームの生活を感じていただくようにした。

（計画2）虐待防止に関する考え方及び具体策

下記の5点に取り組みます。

- ① 何よりも身体拘束をしないケアを実践します。厚生労働省「身体拘束ゼロへの手引き」に基づき身体拘束は基本的に行わないこととし、個々の利用者の精神的状況に応じ、具体的な行為ごとの工夫（代替的な関わり）を行い、ケア方法の改善や環境の整備を図り身体拘束をしない工夫により適切なケアを実施する。また、職員に対し身体拘束ゼロの考え方を徹底し、身体拘束をしないケアの知識を深めるための研修会を実施し、利用者の生活歴や生活環境を理解し行動パターンの把握に努め、職員と家族の協働により身体拘束をしないケアを実施する。
- ② 東京都福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター作成の「虐待の芽チェックリスト」を活用し、職員自身でも定期的に自らの関わり方を振り返るような機会を設ける。

- ③ 介護の現場は、密室性の高い場である。利用者の尊厳や人格の尊重、そして生命の大切さを心にとどめない行動をすることがないように、自分自身を戒め責任ある行動をとり、人の目がない場でも常に意識しながら介護に従事するよう心がけることである。このことを踏まえ、施設内研修においては介護技術のみならず道徳的倫理観を養う研修会を定期的に実施する。
- ④ ストレスチェック制度では常勤職員だけではなく、勤務日数の少ない非常勤職員も含めることで、従事する職員の業務負担感や抱えているストレスを早期に把握し、必要に応じて勤務時間や休日の取り扱いといった労働環境の見直しなどを行う。
- ⑤ 定期的な全体スタッフ会議（月1回）やユニットミーティング（随時）、リーダー職員会議（随時）などの開催時間を確保し、利用者に関する情報の共有のみならず、シフト制の職場の課題であるコミュニケーション不足を補う機会になるような運営に心がける。

実績2

身体拘束廃止に介しては以下の取り組みを行った。

検討会の開催（6月・9月・12月・2月）

研修会の開催（6月・3月）

これらを通じて、現状で身体拘束や不適切なケアが行われていないかを確認し、身体拘束に関しての基本的な考え方などを全スタッフと確認した。

スタッフ会議やユニットミーティングを定期実施し、ケアの課題の検討や統一、職員間のコミュニケーションの機会を作るようにしたが、開催自体が困難な月もあった。

（計画3）サービスの質の向上に関する取り組み

- ①ひとりひとりに合わせたケアを行うために、十分に細やかなアセスメントを行います。ご本人はもとよりご家族や関係機関の専門職から、心身状態の情報だけでなくその方の歩んでこられた生活史を把握するように努めます。
- ② 家族が参加しやすい行事などを企画するなど、ご家族様同士の交流が深まることで、ホームに対する要望やご意見を表明しやすい場を設けていく。
- ③ 義務化されている第三者評価だけでなく、ホーム独自の自己評価を検討し実施します。
- ⑤ 入居前までされてきた趣味活動や地域との交流が途切れることのないよう、地域ボランティアを積極的に受け入れることで、介護職員だけでは不十分になりがちな生活の潤い的な側面に配慮した運営を行います。

実績3

サービスの質の向上に関して以下の取り組みを行った。

ご家族の参加機会の提供

定期的に面会に来所され、一緒に外出するご家族もおられた。家族が参加する行事の機会をつくり、意識的にお声かけして参加していただいた。

グループホーム開設1周年記念の会	11家族	12名参加
フードコート外食	1家族	参加
遠足（薬師池公園・相模原北公園）	3家族	3名参加
流しそうめん・すいか割り	6家族	11名参加
敬老会	7家族	13名参加
バーベキュー	3家族	4名参加
紅葉狩り（薬師池公園）	2家族	4名参加

研修機会の確保

月	内容	参加者
4月	東京都認知症介護基礎研修	2名
5月	東京都認知症介護実践者研修	1名
5月	法人内新入職員研修	2名
5月	法人内介護研修	3名
6月	救命研修	11名
7月	法人内介護研修	2名
9月	東社協登録講師派遣研修(介護技術)	6名
9月	グループホーム連絡会交流会	3名
9月	グループホーム連絡会見学会	3名
10月	身体拘束廃止研修会	3名

職員研修では、東京都認知症介護実践者研修に1名、認知症介護基礎研修に2名が参加し、認知症介護の理解を深めることができた。入居者家族の救急救命士の方に協力いただき、AEDの使用法や心肺蘇生の講習を開催できた。その他、法人内の新入職員研修や介護研修に参加して各スタッフがスキルアップできるようにした。ホーム内でも、東社協の出張研修制度を活用し、介護技術の研修を行った。交代制の勤務で参加者が一部に限られるなど現実的な課題もあった。

また、グループホーム連絡会の交流会や見学会に職員3名が参加し、情報交換や他施設の取り組みなどを参考にすることができた。

(計画4) 地域との連携・交流

- ①隔月に開催する運営推進会議において、地域の自治会や民生委員、老人クラブの代表者をお招きし、地域におけるグループホームの役割を知っていただくような情報発信を行う。
- ②地域自治会や自主防災組織と連携し、万一の際の協力体制を構築しておく。また、普段より地域の防災活動にも積極的に参加させていただき、いざという時のパイプ作りに心がけておく
- ③食材料の購入は可能な限り地元から購入するなど、地域住民に受け入れてもらえるような運営を行う。

実績4

隔月に行う運営推進会議を年6回(5月・7月・9月・11月・1月・3月)行い、地域の町内会・老人会・民生児童委員の代表の方に参加していただき、ホームの運営状況を紹介し、知っていただくように努めた。地域のスーパーやお茶屋・花屋・薬局などに入居者と一緒に買い物に行くなどして近隣との交流に努めた。盆踊りやどんと焼きなど、地域の行事に積極的に参加した。町田市のいきいきポイント活動者受入れ施設に登録し、演芸ボランティアに来ていただいた。

(計画5) 医療機関との連携

- ①ご希望のある医療機関やかかりつけ医への通院が継続できるように支援する。
- ②協力医療機関だけでなく、眼科や耳鼻科、皮膚科などの外来通院先についても情報収集を行い、必要に応じて受診可能な体制を整える。
- ③必要に応じて適切な時期に入院が可能な医療機関とのつながりを保つ。また、入院した利用者が早期に退院可能となるようにこまめな情報交換を行う。それが可能となるように医療ソーシャルワーカーとの関係作りを意識する。

④ 関連法人が運営する在宅療養支援診療所を協力医療機関とすることで、必要に応じた医療が遅滞なく受けられるような体制とする。

実績5

往診で入っている内科、歯科、眼科以外にも、必要があれば整形外科、皮膚科、脳神経外科などを受診して入居者の健康管理に努めた。また、急変した場合等は、緊急で総合病院の受診を行った。

定期 内科往診 月2回
歯科往診 毎週
眼科往診 月1回

その他外来（受診援助）

内科	3回（3名）
整形外科	4回（4名）
皮膚科	8回（3名）
脳神経外科	2回（2名）
眼科	1回（1名）
救急外来	3回（3名）

（計画6）高齢者支援センターおよび地域ケアマネジャーとの連携

- ①高齢者支援センターが主宰する地域ケア会議に積極的に参加させていただき、地域のネットワーク作りを強化する。
- ②地域のケアマネジャーと定期的にコミュニケーションを取り顔の見える関係作りを行うことで、新規入居者の紹介が得られやすいように努める。
- ③町田市介護サービスネットワークのグループホーム連絡会に加入する。
- ④多忙な中、運営推進会議に参加下さる関係者にとって資する時間となるように、運営推進会議の議題がありきたりの内容にならないように努める。

実績6

地域のケアマネジャーに対しては、挨拶回りや空き情報を伝えるなどホームを知ってもらうようにした。町田市グループホーム連絡会の全体会議やブロック会に参加し、他ホームの取り組みなども聞いて運営の参考にした。

全体を通して

様々な行事や活動は開設初年度よりは増やすことはできたが、スタッフの人員が十分でない日もあり、継続、発展的な活動ができないこともあった。入居者の日々の生活を充実させるためにも、スタッフにとって働きやすい職場、やりがいのある職場にしていかなければならないと感じている。

地域の行事へ参加し交流にも努めたが、日常的な交流までは至らなかったことは、次年度に引き続いた課題である。

平成30年度 グループホーム 収入実績（単位）千円

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
前年度 収入実績		164	2873	3436	4171	4046	4401	5197	5453	7067	7889	7603	8270	60570
収入予算		7770	7730	7730	7730	7730	7730	7730	7730	7730	7730	7730	7730	92800
収入実績		7825	7916	7524	8502	7799	8510	8568	7881	8121	8304	7685	8739	97374
達成率		100.7%	102.4%	97.3%	110.0%	100.9%	110.1%	110.8%	102.0%	105.1%	107.4%	99.4%	113.1%	104.9%
四 半 期	予算	23230			23190			23190			23190			92800
	実績	23265			24811			24570			24728			97374
	達成率	100.2%			107.0%			106.0%			106.6%			104.9%
居室数		540	558	540	558	558	540	558	540	558	558	504	558	6570
稼働居室数		486	520	529	548	557	514	554	524	556	528	499	545	6360
空き居室		54	38	11	10	1	26	4	16	2	30	5	13	210
稼働率		90.0%	93.2%	98.0%	98.2%	99.8%	95.2%	99.3%	97.0%	99.6%	94.6%	99.0%	97.7%	96.8%
四 半 期	居室数	1638			1656			1656			1620			6570
	稼働 居室数	1535			1619			1634			1572			6360
	稼働率	93.7%			97.8%			98.7%			97.0%			96.8%
入居者数		0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
退去者数		0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3

総務管理課（法人本部事務局）

1、経理業務

【計画】

- (1)平成 30 年度決算業務
- (2)会計監査、資産登記変更手続き
- (3)平成 30 年度補正予算
- (4)平成 31 年度当初予算作成
- (5)起票処理
- (6)小口現金管理
- (7)各種台帳作成

【実績】

- (1)平成 29 年度決算手続き
 - ・ 5/24・・・監事監査
 - ・ 6/25・・・資産変更登記
 - ・ 5/31・・・理事会承認
 - ・ 6/16・・・評議員会承認
- (2)月次試算表の作成も滞りなく行った。また、例年通り毎月開催される管理者会議において前月の収支報告を行った。
- (3)2,3 月の予定
 - ・ 平成 30 年度最終補正予算
 - ・ 平成 31 年度当初予算作成
 - ・ 平成 30 年度決算手続き

2、給与、労務管理業務

【計画】

- (1)年末調整・・・12 月
- (2)支払調書、法定調書の作成提出・・・1 月
- (3)職員定期健康診断等の実施
 - ・ 職員定期健康診断・・・6 月
(夜勤業務従事者については、6、2 月 年 2 回の実施)
 - ・ ストレスチェック・・・10～11 月
 - ・ 職員インフルエンザ予防接種・・・11 月ごろから
 - ・ 腰痛検診等の実施
- (4)社会保険加入手続き（随時）
- (5)月次勤務表作成

【実績】

- (1)年末調整の実施・・・12 月
- (2)支払調書、法定調書の作成、提出・・・1 月
- (3)定期健康診断の実施
 - ・ 定期健康診断・・・8 月～1 月

- ・夜勤従事者については、年 2 回の実施（9、3 月）
- ・ストレスチェックの実施（10～11 月）
- (4)「時間単位年休」制度の導入。・・・9 月より実施。
- (5)「腰痛予防」の研修を開催（2 月の施設内研修にて実施）

3、その他

【計画】

- ・避難訓練
- ・消防設備点検（年 2 回）
- ・エレベーター点検（月次）

【実績】

- ・消防・避難訓練・・・11/16、1/29、3/27
- ・消防設備点検・・・8/8、2/7
- ・エレベーター点検・・・4/17、5/1、6/19、7/17、8/21、9/18、10/23、11/20、12/18、1/22、2/19、3/25
- ・建築設備定期検査・・・6/22
- ・貯水槽清掃・点検・・・5/6
- ・簡易専用水道検査・・・5/8

4、3 ケ年プロジェクト関係

【計画】

(1)「介護事業の充実」

- ①研修委員会を中心とした階層別研修プログラムの検討、試行的導入
- ②管理者研修プログラムの評価と必要に応じた見直しの実施
- ③階層別評価の導入検討、試行的実施
- ④サービス維持・改善委員会の枠組み検討、新設
- ⑤ホームページの求人専用サイトの再構築

(2)「社会貢献」

- ①BCPを含めた災害対策マニュアルの見直し
- ②会議室やシニアカフェ等の貸し出し
- ③災害時備蓄食を1週間分に増量
- ④地域貢献活動の取組（施設周辺清掃活動の継続実施）
- ⑤「なるせだいまつり」への参加と出店
- ⑥地域総合防災訓練への参加

(3)「経営の安定化」

- ①各種物品調達経費・光熱水費低減活動の実施（対前年比 3 %低減）
- ②給水給湯設備の更新工事にかかる具体的な実施計画の策定。
- ③人事考課制度のあり方再検討。
階層別化や給与体系を含めた抜本的な制度改革プロジェクト実施
- ④次世代リーダー職員等の育成強化
- ⑤介護職員の業務負担軽減化活動

- ⑥働きやすい職場作りへの取り組み
- ⑦寄付金収入の確保にかかる各種取り組み

【実績】

(1)「介護事業の充実」

①「研修委員会の中心とした階層別研修プログラムの見直し」

研修委員会により、「リーダー研修」、「施設内研修」、「新入職員研修」について年度単位、また一定の期間ごとに振り返りと評価を行い、次回以降へ活かすよう取り組んだ。

②「管理者研修プログラムの評価と必要に応じた見直しの実施」

研修委員会にて、前年度に実施した主任職以上を対象とするリーダー研修のプログラムを見直し実施した。前年度とは違った内容を計画し、外部研修機関及び内部職員を講師としたプログラムを実施した。

③「サービス維持・改善委員会の枠組み検討、新設」

6月より主任職以上が委員となり、本会のサービスの見直しと検討の為、サービス維持・改善委員会を発足し今年度は2つのテーマを掲げ、検討を重ねた。

今年度は、大きく2つのテーマを挙げ、5回の会合をもった。

(検討テーマ)

「デイサービスの付加価値や魅力をいかにPRしていくための有効な改善策」

(開催日：6/16、8/21)

「接遇／マナーについての検討」

(開催日：10/25、12/21、2/22)

(2)「社会貢献」

①「災害時備蓄食を1週間分に増量」

ケアセンター成瀬では以前より災害時備蓄を3日分確保しているが、これを5日分増加し1週間分とする予定であったが、費用面及び置き場スペースの確保が十分にできなかった為、今年度は見送ることとした。

②「地域貢献活動の取組（施設周辺清掃活動の継続実施）」

昨年度に引き続き、朝のミーティング後、職員による施設周辺の清掃活動に取り組んだ。原則毎週水曜日を実施日とし、雨天を除き実施した。

③「「なるせだいまつり」への参加と出店」

今年度、初めての試みとして、地域の夏祭りである「なるせだいまつり」への出店を行った。7月下旬の日程に向けて、4月ごろより準備を開始した。多くのスタッフが参加し、当日はクレープ、鳥のから揚げ、アメリカンドッグ、さつま揚げ、を販売し、完売することができた。

④「西日本豪雨被災地支援ボランティア活動への職員派遣」

昨年7月初旬に西日本の広域で発生した豪雨へ影響で1級河川が氾濫した岡山県倉敷市真備町の復興活動を支援する目的で、倉敷市出身の統括施設長が7月21日～22の2日間、現地に出向き災害ボランティア活動を行った。

3、「経営の安定化」

①「各種物品調達経費・光熱水費低減活動の実施（対前年比3%低減）」

日常での消耗品、光熱水費の無駄の低減には会議、ミーティング等を通し周知しながら、職員一同で取り組んだ。光熱水費は法人合計でみたとき、前年対比では11.3%増加しております。

ただ、本取り組みは第2次3ヶ年計画から継続的に実施しており、対前年比のコスト減少を、毎年達成し続けるのは限界がある為、次年度に向けては、根本的に見直し、電気料の大幅削減に向けて業者との折衝を重ねた。これにより、平成31年度より年間想定で約70万円の経費削減を見込んでいる。

光熱水費実績

(ケアセンター成瀬拠点)

(単位：円)

	平成29年度	平成30年度	差異
電気料	5,352,658	5,363,406	10,748
ガス料	958,417	1,086,115	127,698
水道料	2,160,577	2,345,579	185,002
合計	8,471,652	8,795,100	323,448

(木曽東グループホーム圓拠点)

(単位：円)

	平成29年度	平成30年度	差異
電気料	1,093,675	1,460,979	367,304
ガス料	388,329	615,907	227,578
水道料	616,169	894,742	278,573
合計	2,098,173	2,971,628	873,455

④「次世代リーダー職員等の育成強化」

今年度は全12回のリーダー研修を実施した。昨年までのスーパービジョンを主としたテーマから、今年度は更にリーダー職員の基本的スキルへとテーマを大幅に見直した。「社会福祉法人の職員が地域から求められているものは何だろうか?」、「チームマネジメント」、「収支管理」、「労働関係法」、「事業計画の策定法」等をテーマにとりあげ、リーダー層のスキル向上に努めた。

⑤「介護職員の業務負担軽減化活動」

特養、デイ、ヘルパーステーション、ケアマネジメントセンターへ専属の事務スタッフの新たな雇い入れを行い、介護職員が業務集中できるように環境づくりを行った。

⑥「働きやすい職場作りへの取り組み」

有給休暇があってもまとめて取得することができない、またスタッフの個別の事情に合わせ休暇がとれるように、「時間単位年休」の制度を9月より開始した。これにより、最低1時間での有給休暇取得が可能となり、少しでも働きやすい職場作りに寄与した。

⑦「寄付金収入の確保にかかる各種取り組み」

10月より、ケアセンター成瀬の建物、特に給水給湯設備の改修工事に向け、趣意書を作成し広く寄付を募った。

また、広報委員会でも、今後に向け、本会ホームページでの寄付募集の案内を更に強化し、ホームページから寄付手続きができるような検討を開始した。

(総括)

今年度は第3次3ヶ年計画の2年目であった。今年度新たな取組として、地域の夏祭りのイベントである「なるせだいまつり」への出店、1時間単位での有休取得を可能とした「時間単位年休」制度の導入、また「サービス維持・改善委員会」の新設に取り組んだ。いずれも3ヶ年計画で掲げた項目です。

今年初出店となった「なるせだいまつり」は、4月ごろから準備を開始し無事終わることがで

きた。また、秋にはバザーの祭典である「ケアセンター成瀬まつり」を住民の会様、NPOアップル様と共に協力して開催した。いずれも多く多くの職員が参加し、盛況の下に終えることができた。今後も社会福祉法人として、少しでも多くの地域住民の方々が楽しんで頂き、更に本会及び本センターを知って頂く機会となるよう取り組んで参りたい。

また、今年度は例年にも増して受付周辺の飾り付けも積極的に行った。こどもの日にはスタッフが折り紙で作成した兜を、そのほかハロウィン、クリスマス、正月飾り、節分など、季節に応じ飾り付けを行い、センターへお越しになる方々に少しでも楽しんで頂けるよう努めた。

一方で、法人内部を見渡した時、人事面ではスタッフの人材不足が続いている。介護業界全体の課題ではあるが、本会でも調査分析のうえ、一刻でも早くこれを改善していくべき喫緊の課題として取り組むこととする。

また、その一環として、この9月より「時間単位年休」制度を導入した。導入からの半年間、多くのスタッフが利用しており、導入の効果があつたと受けとめている。「働き方改革」が叫ばれている中、本会でも「働きやすい職場」をテーマの1つとして捉え、更に良いサービスをご提供できる土台作りとの為、またその源泉である職場環境について総務管理課として改善の為、来年度も引き続き検討を続けて参りたい。

平成30年度 各種会議・委員会の実施状況

1, 理事会

開催日	議 題 他
5月31日	第1号議題 29年度事業報告の件
	第2号議題 29年度決算報告の件
	第3号議題 定時評議員会に関する招集事項決定の件
8月4日	第1号議題 30年度第1四半期事業総括の件
	第2号議題 資金繰り状況の件
	第3号議題 寄付金募集方法の件
	その他事項 災害ボランティア活動報告
11月15日	第1号議題 30年度上半期事業総括の件
	第2号議題 私有車両使用規程一部変更の件
	第3号議題 運転資金等借入の件
12月20日	第1号議題 運転資金追加借入の件
	第2号議題 きらぼし銀行残債分一括返済の件
	第3号議題 給食業務委託契約の件
3月21日	第1号議題 30年度事業総括の件
	第2号議題 寄付金受入状況の件
	第3号議題 30年度第一次補正予算案の件
	第4号議題 給水ポンプ更新の件
	第5号議題 当面の資金繰り見通しの件
	第6号議題 31年度事業計画案の件
	第7号議題 31年度当初予算案の件
	第8号議題 次回評議員会に関する招集事項決定の件

2, 評議員会

開催日	議 題 他
6月16日	第1号議題 29年度事業報告の件
	第3号議題 29年度決算報告の件
3月30日	第1号議題 30年度事業総括の件
	第2号議題 寄付金受入状況の件
	第3号議題 給水ポンプ更新の件
	第4号議題 30年度第一次補正予算の件
	第5号議題 31年度事業計画の件
	第6号議題 31年度当初予算の件

3、管理者会議(計12回)

開催日	議 題 他
4月26日	・理事長挨拶
	・3月度収支報告
	・29年度事業報告書提出依頼の件
	・29年度下半期人事考査結果の件
	・ヘルパーステーション運営体制の件
	・なるせだいまつり出店の件
	・利用契約書等差し替え進捗確認の件
	・私有車輛使用規程に関する運用の件
	・30年度研修計画の件
	・全館LED化工事日程の件
	・ケアセンター成瀬住民の会30年度事業計画の件
5月28日	・理事長挨拶
	・29年度決算状況
	・4月度収支状況
	・ヘルパーステーション運営体制の件
	・ドライブレコーダー追加設置の件
	・社内クラウド使用状況確認の件
	・通勤交通費支給単価変更の件
	・私有車輛規程における申請手続不備者の件
	・東京都「職業体験」及び「介護就業促進事業」の件
	・29年度事業報告の件
	・「サービス維持・改善委員会」立ち上げの件
6月27日	・なるせだいまつり出店準備の件
	・理事長挨拶
	・5月度収支報告
	・なるせだいまつり出店準備の件
	・30年度事業計画に関する第1四半期総括提出依頼の件
7月25日	・第三次3カ年計画の達成状況及び計画修正の件
	・理事長挨拶
	・6月度収支報告
	・なるせだいまつり出店に関する最終確認の件
	・短時間有休制度新設の件
	・心づけ等辞退の取り扱い
	・町福総合福祉学科実習生受入スケジュールの件
	・30年度第1四半期総括の件
8月30日	・災害ボランティア活動報告の件
	・理事長挨拶
	・7月度収支報告
	・時間単位有休制度運用開始の件
	・デイサービス利用実績動向の件
	・なるせだいまつり出店に関する総括
	・地域防災対策会議開催の件
	・給水ポンプ更新の件
9月25日	・寄付金募集強化活動の件
	・理事長挨拶
	・8月度収支報告
	・資金繰り状況の件
	・ケアセンター成瀬まつり実行委員会より
	・30年度上半期事業総括提出依頼の件
	・年末年始営業の件
	・下半期労働条件通知書配布の件

開催日	議 題 他
9月25日	・業務上におけるSNS使用の件
	・福祉サービス第三者評価に関する重要事項説明書追記事項の件
	・CM&HS行政実地指導に関する結果報告
10月31日	・理事長挨拶
	・9月度収支状況
	・ケアセンター成瀬まつり実行委員会より
	・30年度上半期人事考課結果の件
	・避難訓練実施の件
	・30年度上半期事業総括の件
11月26日	・理事長挨拶
	・10月度収支報告
	・ケアセンター成瀬まつり実施総括の件
	・ボランティア親睦会参加者確認の件
	・町田介護支援ネットワーク忘年会参加者確認
	・新入職員スケジュールの件
	・デイサービス事業に関する情報共有
	・ケアマネジメントセンター運営体制の件
	・グループホーム運営体制の件
	・31年度事業計画策定用資料の提出いらいについて
	・年賀状発送先データ確認修正依頼の件
	・私有車輛使用規程一部変更の件
	・賞与支給及び運転資金等借入の件
	・消費税増税に伴う制度改定の動向について
12月26日	・理事長挨拶
	・11月度収支状況
	・年末年始緊急時対応の件
	・デイサービス運営体制の件
	・正面玄関自動ドア切替操作再徹底の件
	・運転資金追加借入の件
1月28日	・理事長挨拶
	・12月度収支状況
	・36協定終結の件
	・接遇マナーに関する意見集約の件
	・グループホーム実地指導の件
	・看護グループ運営体制の件
	・今後の実地指導対策(勤務表データ作成)の件
	・避難訓練実施の件
2月27日	・理事長挨拶
	・1月度収支状況
	・30年度下半期人事考課の件
	・31年度実習生受け入れスケジュールの件
	・なるせだいまつりの件
	・グループホーム実地指導結果概要の件
	・31年度介護報酬改定の件
3月25日	・理事長挨拶
	・2月度収支報告
	・36協定締結労働者代表の件
	・30年度補正予算及び介護職員処遇改善手当支給等の件
	・31年度事業計画及び当初予算の件
	・永年勤続表彰対象者の件

4、全体会議(計2回)

開催日	議 題 他
9月28日	理事長・施設長より他 ・平成30年度上半期の事業実績等 ・給水設備の修繕について ・寄付金募集について ・自転車の交通ルールについて ・下半期へ向けての重点的取り組み等 ・各部署管理職より ・質疑応答 ・海外研修報告会
3月28日	理事長・施設長より他 ・30年度の事業実績等 ・各部門の管理職より ・正職員の年度末賞与について ・31年度の全体運営方針について ・介護職員処遇改善手当の支給について ・31年度の処遇計画について ・給水ポンプの更新工事について ・労働時間法制の改正について ・新年度にむけて ・質疑応答

5、リスクマネジメント委員会(計5回)

開催日	議 題 他
4月24日	・事故報告、ヒヤハット事例の共有と再検証 ・その他
6月26日	・事故報告、ヒヤハット事例の共有と再検証 ・その他
8月28日	・事故報告、ヒヤハット事例の共有と再検証 ・その他
10月30日	・事故報告、ヒヤハット事例の共有と再検証 ・その他
12月28日	・事故報告、ヒヤハット事例の共有と再検証 ・その他
2月28日	・事故報告、ヒヤハット事例の共有と再検証 ・その他

6、感染対策委員会(計9回)

開催日	議 題 他
4月26日	・感染症流行概況について ・施設内の罹患状況について ・当面の対策や、今後に備えた対応について。
7月25日	・感染症流行概況について ・施設内の罹患状況について ・当面の対策や、今後に備えた対応について。
9月27日	・感染症流行概況について ・施設内の罹患状況について ・当面の対策や今後に備えた対応について
10月25日	・感染症流行概況について ・施設内の罹患状況について ・10/16東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修出席報告 ・当面の対策や今後に備えた対応について

感染対策委員会

開催日	議 題 他
11月22日	・感染症流行概況について ・施設内の罹患状況について ・インフルエンザワクチン予防接種実施状況について ・当面の対策や今後に備えた対応について。
12月26日	・感染症流行概況について ・施設内の罹患状況について ・インフルエンザワクチン予防接種実施状況について ・当面の対策や今後に備えた対応について。
1月24日	・感染症流行概況について ・施設内の罹患状況について ・当面の対策や今後に備えた対応について。
2月21日	・感染症流行概況について ・施設内の罹患状況について ・来シーズンにむけての対策や、今後に備えた対応について
3月29日	・感染症流行概況について ・施設内の罹患状況について ・来シーズンにむけての対策や、今後に備えた対応について

7、広報委員会(計12回)

開催日	議 題 他
4月7日	・広報誌「けあなるNo.21」編集会議
5月5日	・広報誌「けあなるNo.21」編集会議
6月2日	・ホームページの検討 ・グループホームのパンフレットのリニューアルに関して
7月7日	・広報誌「けあなるNo.22」編集会議 ・グループホームのパンフレットのリニューアルに関して
8月4日	・グループホームのパンフレットのリニューアルに関して
9月8日	・グループホームの新パンフレットに関して
10月6日	・グループホームの新パンフレット最終校正 ・広報誌「けあなるNo.23」編集会議
11月10日	・広報誌「けあなるNo.23」編集会議
12月8日	・ホームページの検討
1月10日	・広報誌「けあなるNo.24」編集会議
2月2日	・広報誌「けあなるNo.24」校正会議
3月2日	・ホームページの検討。

8、研修委員会(計7回)

開催日	議 題 他
4月25日	・30年度研修計画について ・リーダー研修 施設内研修 新人職員研修
6月19日	・5月度施設内研修実施結果 ・5月度リーダー研修実施結果 ・30年度第1回新人職員研修実施結果 ・6月度のリーダー研修について
8月20日	・6月度の施設内研修実施結果 ・7月度の施設内研修実施結果 ・7月度のリーダー研修実施結果 ・8～11月度の研修計画について
10月22日	・8月度の施設内研修実施結果 ・8月度のリーダー研修実施結果 ・10月度の施設内研修実施結果 ・9月度のリーダー研修実施結果

研修委員会

開催日	議 題 他
10月22日	・第2回新人職員研修開催日程について ・11月～3月度の研修計画 ・介護労働安定センターの無料出張研修について
12月19日	・11月度の施設内研修実施結果 ・10月度のリーダー研修実施結果 ・11月度のリーダー研修実施結果 ・第2回新人職員研修の実施結果 ・12月度の施設内研修実施結果 ・1月～3月度の研修計画
2月12日	・1月度のリーダー研修実施結果 ・1月度の施設内研修実施結果 ・2月度のリーダー研修実施結果 ・年度内の研修計画
3月13日	・2月度の施設内研修実施結果 ・2月度のリーダー研修実施結果 ・年度内の残りの研修について ・31年度研修計画について

9、衛生委員会(計12回)

開催日	議 題 他
4月26日	・巡視報告 ・その他
5月28日	・巡視報告 ・職員健康診断について ・定期健康診断について ・エアコンの温度調整について
6月27日	・巡視報告 ・水道故障の件。
7月25日	・巡視報告 ・職員定期健康診断について
8月30日	・巡視報告 ・ストレスチェックについて ・エアコン故障の件
9月25日	・巡視報告 ・ストレスチェックの実施について ・職員インフルエンザ予防接種の件
10月31日	・巡視報告 ・ストレスチェックの実施について ・ストレスチェックの実施について ・職員インフルエンザ予防接種の件
11月26日	・巡視報告 ・ストレスチェックの実施について ・職員インフルエンザ予防接種の実施について
12月26日	・巡視報告
1月28日	・巡視報告 ・ストレスチェック結果報告
2月27日	・巡視報告
3月25日	・巡視報告

10、サービス維持・改善委員会(計5回)

開催日	議 題 他
6月16日	・デイサービスの付加価値や魅力を以下にPRしていくための有効な改善策
8月21日	・デイサービスの付加価値や魅力を以下にPRしていくための有効な改善策
10月25日	・接遇／マナーについての検討、接遇マナーガイドラインの作成
12月21日	・接遇／マナーについての検討、接遇マナーガイドラインの作成
2月22日	・接遇／マナーについての検討、接遇マナーガイドラインの作成

平成30年度 各種研修報告

内部研修開催実績

①「一般職員向け施設内研修」

一般介護職員へ向けた介護の基本研修。前年に引き続き、外部の研修機関より専門の講師を招き、1年を通したシリーズものとして開催致しました。なお今年度は、一部のテーマでリーダー職員が講師役となり伝達研修の要素を取り入れ、実務に活きるよう取り組みました。

日付	講師	研修テーマ
5月8日	外部講師	全介助と部分介助の確認(実技の前に)
6月22日	内部職員	認知症の方とのコミュニケーション
7月17日	外部講師	立ち上がりと歩行
9月18日	外部講師	移動・移乗
10月16日	内部職員	感染対策
11月30日	外部講師	シーティング
12月13日	内部職員	食事介助
1月15日	外部講師	ポジショニング
2月8日	内部職員	排泄介助
2月19日	内部職員	腰痛防止対策
3月22日	外部講師	体位交換・起居動作～腰痛予防～

②リーダー研修

副主任以上を対象に、本会のリーダーとして活躍する為に求められる知識、スキルをテーマに研修を行いました。

日付	講師	研修内容
5月24日	外部講師	社会福祉法人の職員が地域から求められているものは何だろう？
6月18日	外部講師	クレーム対応法
7月19日	外部講師	チームマネジメントの理解と取り組み
8月29日	内部職員	収支管理と財務諸表の理解
9月27日	外部講師	認知症状態にある方の歴史と虐待防止
10月22日	外部講師	要望が多い家族への対応
11月22日	外部講師	職場研修の講師になろう！
11月27日	内部職員	労働関係法規の理解
1月9日	外部講師	事業計画策定法
1月29日	外部講師	緊急時蘇生法
2月25日	外部講師	ハラスメントへの対応
3月29日	外部講師	対人交流パターンとリフレーミング

③新入職員研修

主に過去半年の間に入社した職員に向けた基本テーマを取り扱った研修。テーマは、本会の理念、創設の経緯といった本会の成り立ちから始まり、ビジネスマナーや、介護保険制度の概要、個人情報保護、身体拘束の禁止等の知識、リスクマネジメント、感染症予防の知識等を取り上げました。

日付	講師	研修内容
6月12日	内部役職員	「法人理念と地域における法人の役割」、「認知症の理解とケア」ほか
12月11日	同上	同 上

平成30年度 外部研修参加実績

日付	職種	研修内容
4月5日	GH職員	平成30年度東京都認知症介護実践者研修(第4回)
4月19日	GH職員	町田市グループホーム連絡会
4月5日	施設長	平成30年度東京都認知症介護実践者研修
5月7日	デイ職員	リスクマネジメント研修
5月9日	施設長	町田市介護サービスネットワーク2018年度第1回施設部会
5月13日	デイ職員	2018年度実践モデル施設のつどい学習療法導入施設施設責任者の会
5月10日	居宅職員	町田市ケアマネ連絡会介護報酬について入退院時連携を考える
5月25日	総務職員	働き方改革に向けた労働時間関係法令等講習会
5月20日	居宅職員	町田市における成年後見制度の活用
5月24日	看護職員	クレーム対応の手掛かりと実際～パーソナリティに偏りがある人を理解する～
5月25日	栄養士	第2回特定給食施設栄養管理講習会
5月23日	特養職員	介護報酬請求事務に関する研修会(基礎編)
5月24日	総務職員	東京都介護職員キャリアパス導入促進事業費補助金説明会
6月1日	施設長	東京都介護職員奨学金返済・育成支援事業補助金説明会
5月24日	デイ職員	通所事業所連絡会 パーソナルデイサービス部会
6月8日	デイ職員	通所事業所連絡会 南地区ブロック会
6月14日	施設長	平成30年度安全運転管理者講習
6月14日	デイ職員	学習療法マスター認定研修会
6月28日	GH職員	東京都認知症介護基礎研修
6月28日	GH職員	第8回認知症介護基礎研修
7月9日	デイ職員	学習療法マスター指定研修会
7月12日	デイ職員	学習療法マスター指定研修会
7月12日	居宅職員	町田市ケアマネージャー連絡会
7月11日	総務職員	社会福祉法人における計算書類の見方と財務分析のすすめ方
7月19日	デイ職員	町田市から医療・介護制度改革
7月19日	訪問職員	サービス提供責任者初任者研修
7月21日	施設長	西日本豪雨被害に伴う災害ボランティア活動
8月3日	看護職員	東京都ナースプラザ研修「医療訴訟と看護記録」
8月21日	施設長	グランハート悠々園開設記念式典&内覧会
8月22日	施設長	2018度町田市合同運営推進会議
8月14日	居宅職員	相談援助研修・初級編
8月22日	通所職員	町田市地域密着型事業所 合同運営推進会議
7月25日	施設長	学校法人榎本学園 前理事長 お別れの会
6/4-8/30	GH職員	平成30年度東京都介護支援専門員 専門研修課程Ⅰ(1期)
9月12日	施設長	町田市介護サービスネットワーク2018年度第3回町田市高齢者福祉施設部会
7/4-9/6	居宅職員	平成30年度第1期東京都介護支援専門員専門研修 課程Ⅱ
9月19日	施設長	自転車安全利用YOKYOセミナー
9月26日	看護職員	2018 町田市保健所 結核講習会
9/22.23	通所職員	第8回日本認知症予防学会学術集会「地域包括ケアにおける認知症予防」
9月14日	施設長	社会福祉法人福音会 木曾あんしん相談室 開所式
8/8~9/14	特養職員	2018年度 ユニットケア研修 ユニットリーダー研修
9月7日	GH職員	グループホーム連絡会第2回職員交流会
10月10日	施設長	国際福祉機器展(HCR2018)
10月11日	居宅職員	第2回南圏域ケアマネ研修会
10月16日	施設長	30年度東京都感染症対策指導者養成研修
10月17日	訪問職員	サ責カフェ

日付	職種	研修内容
10月26日	看護職員	アクティブ福祉in町田
10月23日	特養職員	虐待の芽に対応するチーム力 不適切な支援を虐待に発展させないために
10月26日	訪問職員	アクティブ福祉in町田
10月26日	施設長	アクティブ福祉in町田及び大会交流会参加
9/7～9/14	特養職員	民間社会福祉施設職員等海外研修・調査
10月30日	通所職員	学習療法実践研究シンポジウム
10月26日	居宅職員	アクティブ福祉in町田
11月8日	居宅職員	歯科医師との連携を考える 第3回 事例を通じた 医療・介護連携
11月9日	特養職員	身体拘束せずに事故を防ぐ方法
11月13日	訪問職員	町田市市内訪問介護事業者とケアマネージャー連絡会の合同研修会に事前研修会
11/6～13	施設長	認知症対応型サービス事業管理者研修
11月12日	総務職員	労働基準法等に関する基礎研修会
11月16日	総務職員	土砂災害防止法に基づく基礎調査の公表及び土砂災害警戒区域等の指定に関する説明会
11月14日	施設長	2018年度第4回町田市高齢者福祉施設部会
11月19日	看護職員	高齢者の結核対策～対応と支援～
11月30日	特養職員	介護報酬請求事務に関する研修会
12月2日	居宅職員	地域包括ケアの在宅療養-認知症とがんを地域で支える-
12月2日	施設長	地域包括ケアの在宅療養-認知症とがんを地域で支える-
11月9日	GH職員	身体拘束せずに事故を防ぐ方法
12月8日	施設長	まち・ひと・くらし研究会設立記念特別講演会
12月12日	通所職員	学習療法地域勉強会エンシェアクラブ
12月13日	訪問職員	苦情を地域、事業所の財産とするために
12月17日	特養職員	2018年度「ハラスメント防止研修」
12月17日	特養職員	ハラスメント防止研修
12月18日	居宅職員	介護保険対象者の生活保護との関係
12月7日	通所職員	町田市ネットワークサポート委員会
1月10日	総務職員	全国経営協 南関東・甲静ブロック協議会セミナー
1月10日	居宅職員	第3回南圏域ケアマネ研修会
1月11日	居宅職員	暮らしの安心セミナー
1月15日	通所職員	高齢者虐待防止研修
1月18日	居宅職員	東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ
1月22日	居宅職員	高齢者虐待防止研修
1月24日	居宅職員	アローチャートアセスメント基礎講座 なぜアセスメントはむずかしいのか
2月1日	居宅職員	2018年度 町田市要介護認定調査員現地研修
2月1日	施設長	東社協研修会
2月8日	通所職員	通所介護事業所南地区ブロック会
2月13日	施設長	町田市介護サービスネットワーク2018年度第5回施設部会
2月15日	通所職員	法令遵守研修
2月20日	通所職員	指定更新研修
2月28日	施設長	平成31年度 介護職員就業促進事業 説明会
3月7日	施設長	東社協高齢者福祉施設協議会 第3回南多摩ブロック会
3月12日	居宅職員	これって虐待？高齢者虐待の防止
3月12日	通所職員	通所介護事業所連絡会総会
3月14日	居宅職員	町田市市内訪問介護事業者とケアマネージャー連絡会の合同研修会
3月14日	訪問職員	町田市市内訪問介護事業者とケアマネージャー連絡会の合同研修会
2月22日	訪問職員	チームケアの為のファシリテーション
3月20日	通所職員	通所介護事業者とケアマネージャー連絡会の合同研修打合せ
3月20日	居宅職員	予防プラン勉強会

平成30年度施設内事故発生状況

発生日	対象/種類	受傷者/破損物品	事故内容
4月3日	職 員	車両	接触
5月4日	職 員	ヘルパー自転車	物損
4月29日	利用者	GH	転倒
6月4日	利用者	デイサービス利用者	転倒
6月1日	利用者	HS利用者	その他
6月19日	利用者	GH	転倒
5月31日	利用者	デイサービス利用者	その他
6月16日	利用者	居宅利用者	その他
9月5日	利用者	GH	転倒
9月15日	車輛	車両	接触
9月26日	車輛	車両	接触
9月28日	利用者	HS利用者	その他
9月30日	車輛	車両	接触
10月13日	利用者	HS利用者	その他
11月14日	利用者	HS利用者	誤薬
12月29日	利用者	HS利用者	訪問忘れ
1月4日	利用者	HS利用者	訪問忘れ
1月21日	利用者	HS利用者	その他
2月22日	利用者	GH	転倒
2月3日	利用者	特養利用者	誤薬
1月25日	車輛	車両	接触
3月9日	利用者	GH	転倒
11月23日	利用者	デイサービス利用者	転倒
3月12日		特養携帯電話水没	その他
3月21日	利用者	GH	誤薬
3月26日	利用者	GH	落薬
3月5日	車輛	デイサービス利用者	接触